

. 子どもの生活実態調査結果

III. 子どもの生活実態調査結果

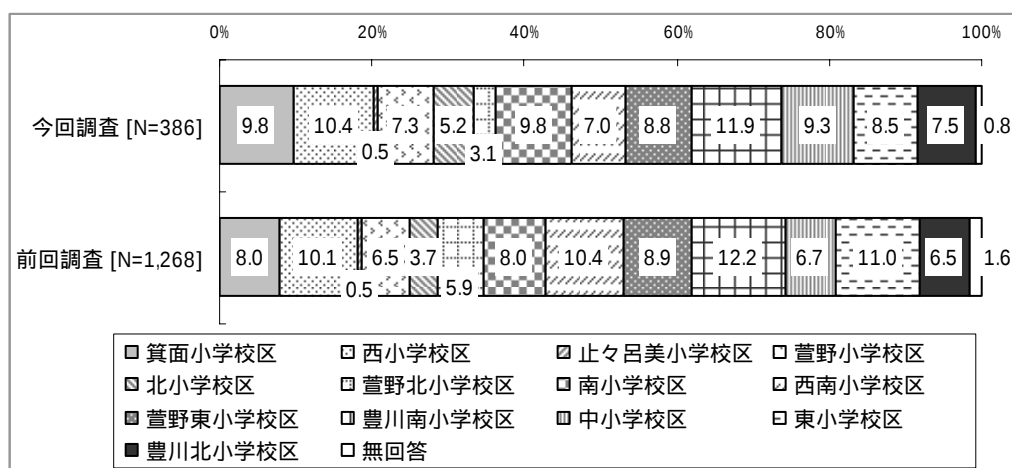
1. 小学生調査結果の分析

1. 回答者の属性

(1) 小学校区

小学校区は、割合の高い順に、「豊川南小学校区」(11.9%)、「西小学校区」(10.4%)、「箕面小学校区」(9.8%)、「南小学校区」(9.8%)等となっています。

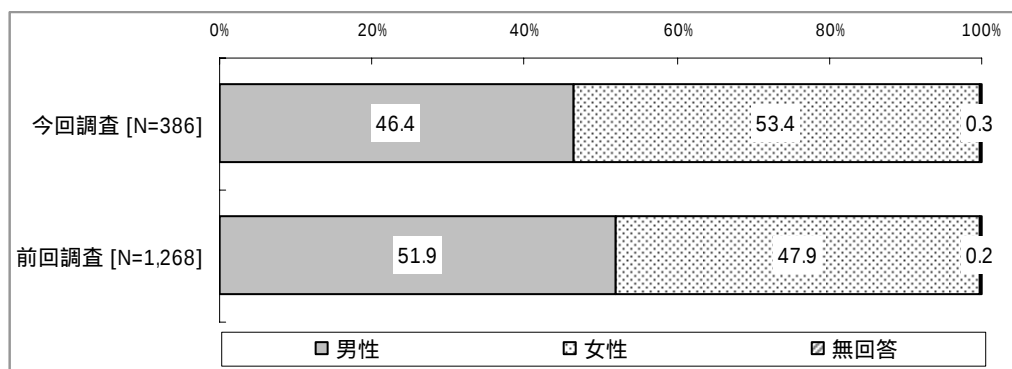
図表 III-1 小学校区



(2) 性別

性別は、「男性」が46.4%、「女性」が53.4%となっており、前回調査よりも「女性」の割合が上昇しています。

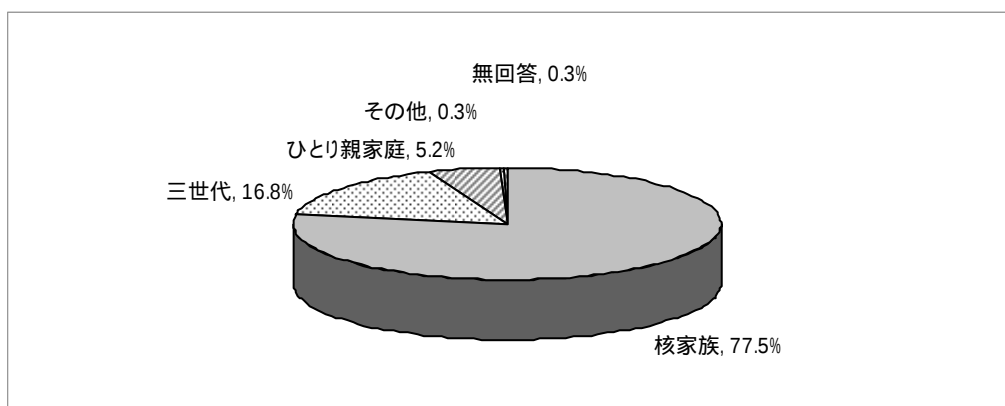
図表 III-2 性別[N=386]



(3) 家族構成

家族構成は、「核家族」の割合が最も高く 77.5 %、次いで、「三世代」(16.8 %)、「ひとり親家庭」(5.2 %) の順に高い割合となっています。

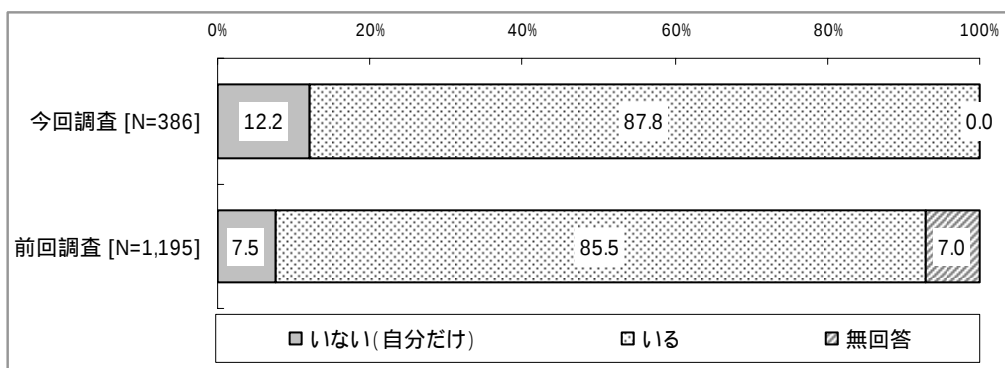
図表 III-3 家族構成[N=386]



(4) きょうだいの有無

きょうだいの有無については、「いる」という人が 87.8 %、「いない(自分だけ)」という人が 12.2 %となっています。

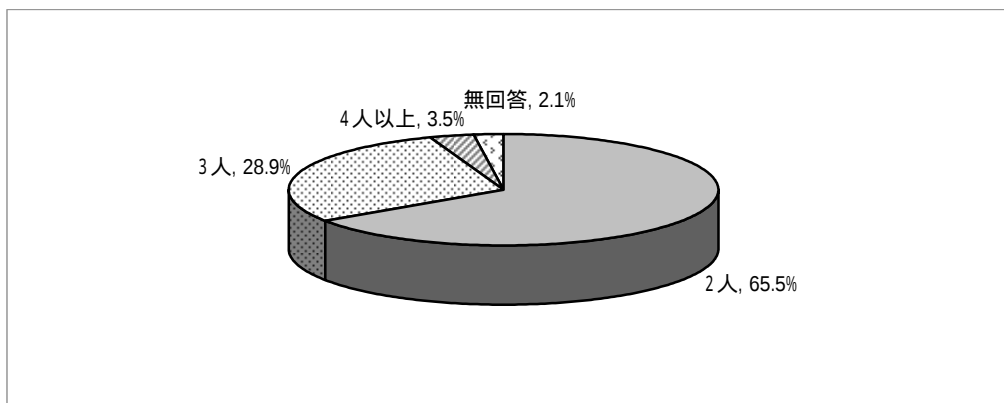
図表 III-4 きょうだいの有無



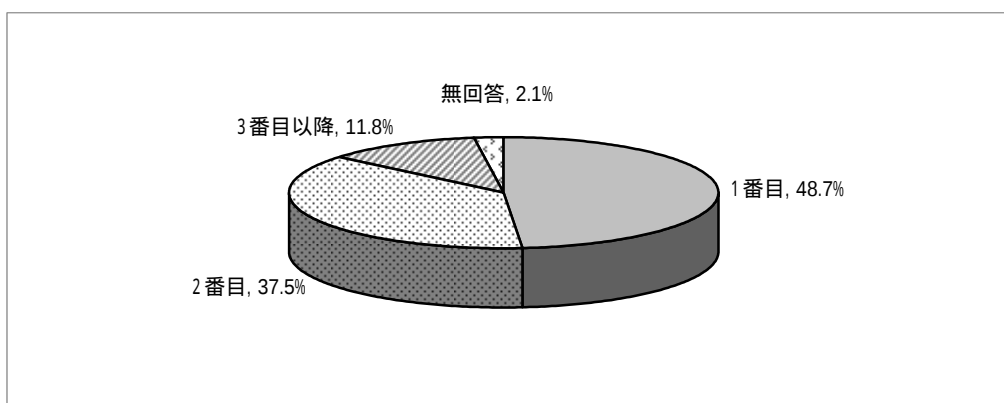
前回の回答者は、小学6年生の保護者である。

きょうだいが「いる」と回答した人に、きょうだいの人数を聞いたところ、「2人」の割合が最も高く65.5%、次いで「3人」の割合が高く28.9%となっています。また、きょうだいの何番目かについては、割合の高い順に、「1番目」(48.7%)、「2番目」(37.5%)となっています。

図表 III-5 きょうだいの人数[N=339]



図表 III-6 きょうだいの中で何番目か[N=339]

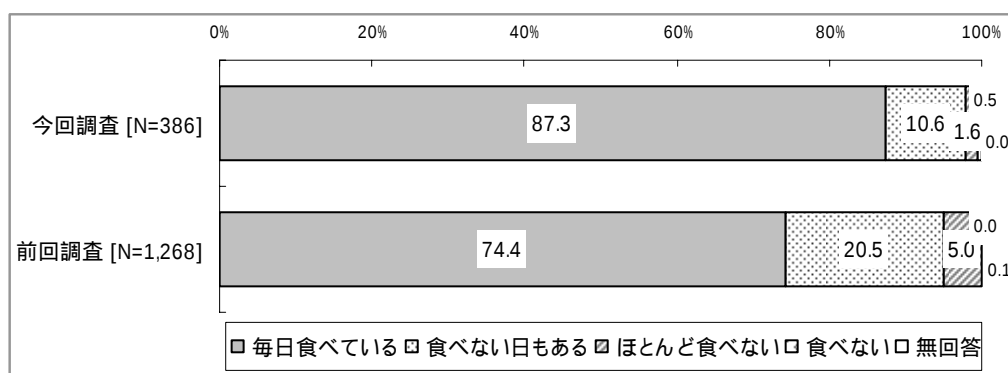


2. 家庭での様子

(1) 朝食の頻度

朝食をとる頻度を聞いたところ、「毎日食べている」という人が大半を占めており、87.3%となっています。一方、「食べない日もある」という人の割合は10.6%となっています。前回調査と比較すると、「毎日食べている」という人の割合は12.9ポイント上昇しています。

図表 III-7 朝食をとる頻度



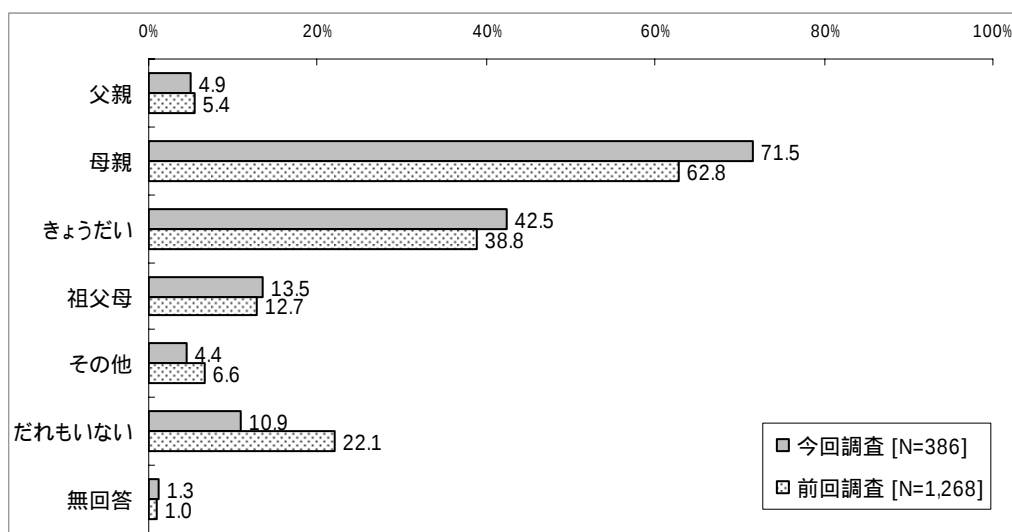
「食べない」は、今回調査のみの選択肢である。

(2) 家族とのかかわり

学校から帰ってきた時に家にいる人を聞いたところ、「母親」の割合が最も高く71.5%、次いで、「きょうだい」(42.5%)、「祖父母」(13.5%)の順に高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「母親」(+8.7ポイント)、「きょうだい」(+3.7ポイント)の割合が上昇しており、「だれもいない」の割合が11.2ポイント低下しています。

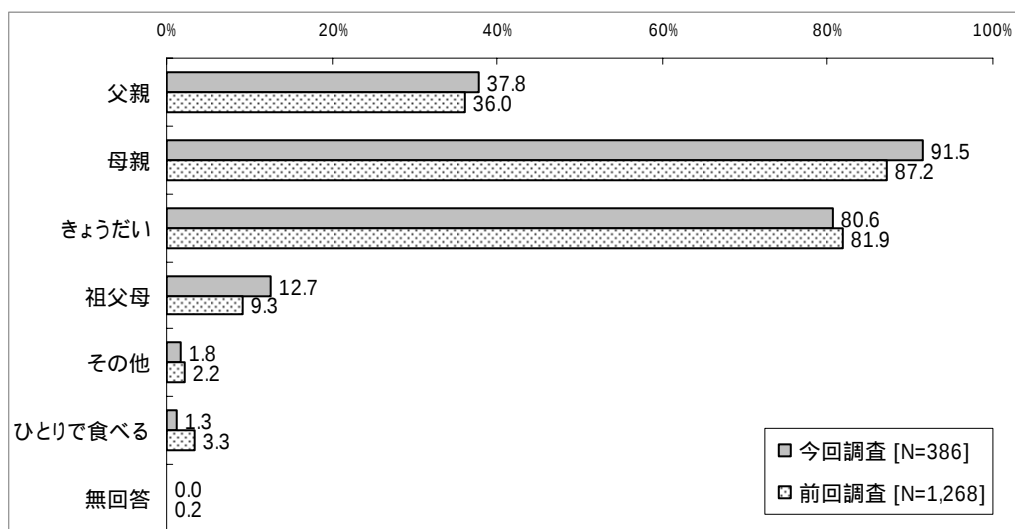
図表 III-8 学校から帰ってきた時に家にいる人[複数回答]



夕食をだれと食べることが多いか聞いたところ、「母親」(91.5%)、「きょうだい」(80.6%)の割合が高くなっています。また、「父親」の割合は37.8%となっています。

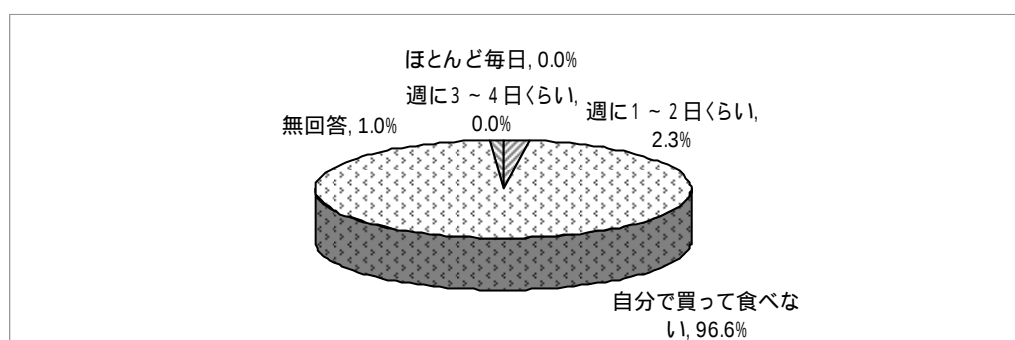
前回調査と比較すると、「母親」(+4.3ポイント)、「祖父母」(+3.4ポイント)の割合が上昇しており、「ひとりで食べる」の割合が2.0ポイント低下しています。

図表 III-9 夕食をだれと食べることが多いか[複数回答]



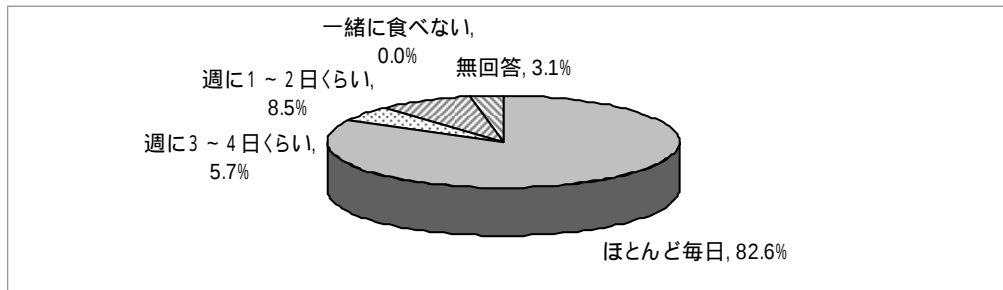
夕食を自分で買って食べることがあるかを聞いたところ、「自分で買って食べない」という人が大半を占めており、96.6%となっています。また、「週に1～2日くらい」という人の割合は2.3%となっています。

図表 III-10 夕食を自分で買って食べることがあるか[N=386]



家族と一緒に食事をする頻度を聞いたところ、「ほとんど毎日」という人の割合が最も高く 82.6%、次いで「週に1～2日くらい」という人の割合が高く 8.5%となっています。

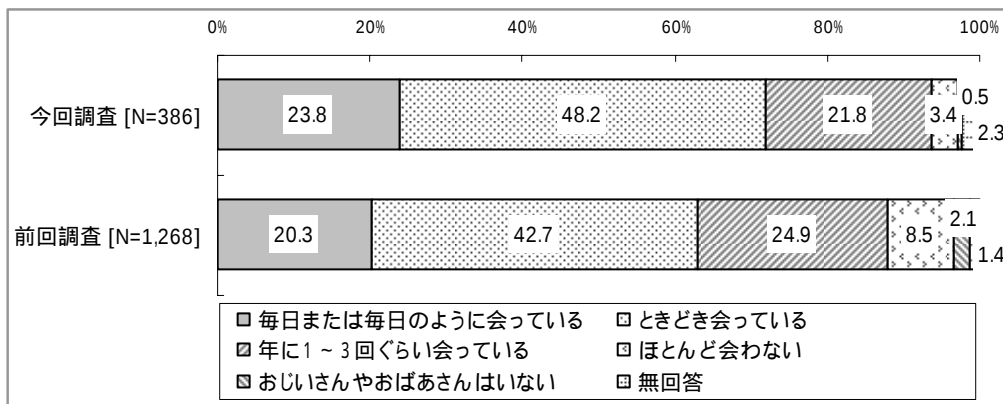
図表 III-11 家族と一緒に食事をする頻度[N=386]



祖父母と会う頻度について聞いたところ、「ときどき会っている」という人の割合が最も高く 48.2%、次いで「毎日または毎日のように会っている」(23.8%)、「年に1～3回ぐらい会っている」(21.8%)の順に高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「毎日または毎日のように会っている」(+3.5 ポイント)、「ときどき会っている」(+5.5 ポイント)の割合が上昇しており、「ほとんど会わない」という人の割合が5.1ポイント低下しています。

図表 III-12 祖父母と会う頻度

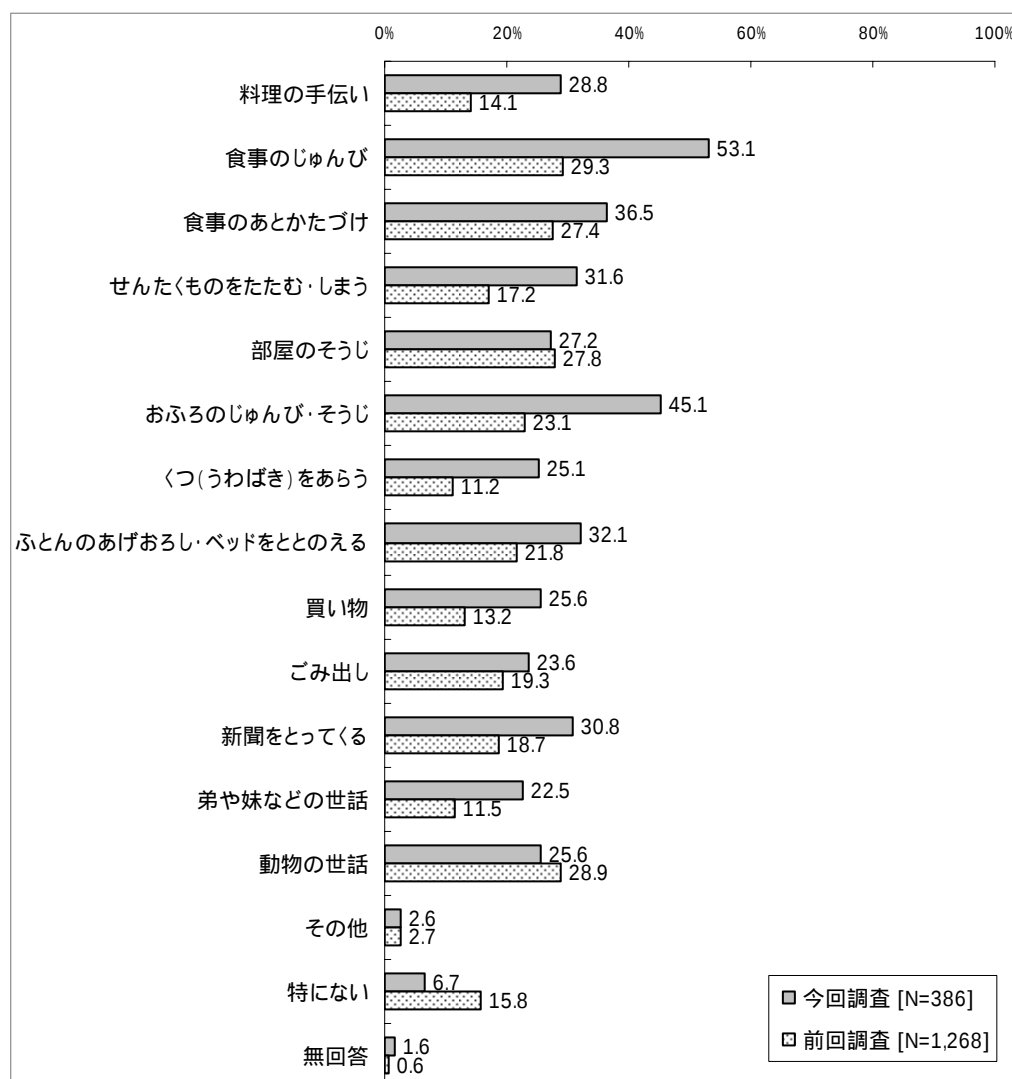


(3) 家の手伝い

普段している家の手伝いを聞いたところ、「食事のじゅんび」(53.1%)、「おふろのじゅんび・そうじ」(45.1%) が高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「特にない」という人の割合が 9.1 ポイント低下しており、何らかの手伝いをしている人は概ね上昇傾向にあります。

図表 III-13 普段している家のお手伝い[複数回答]



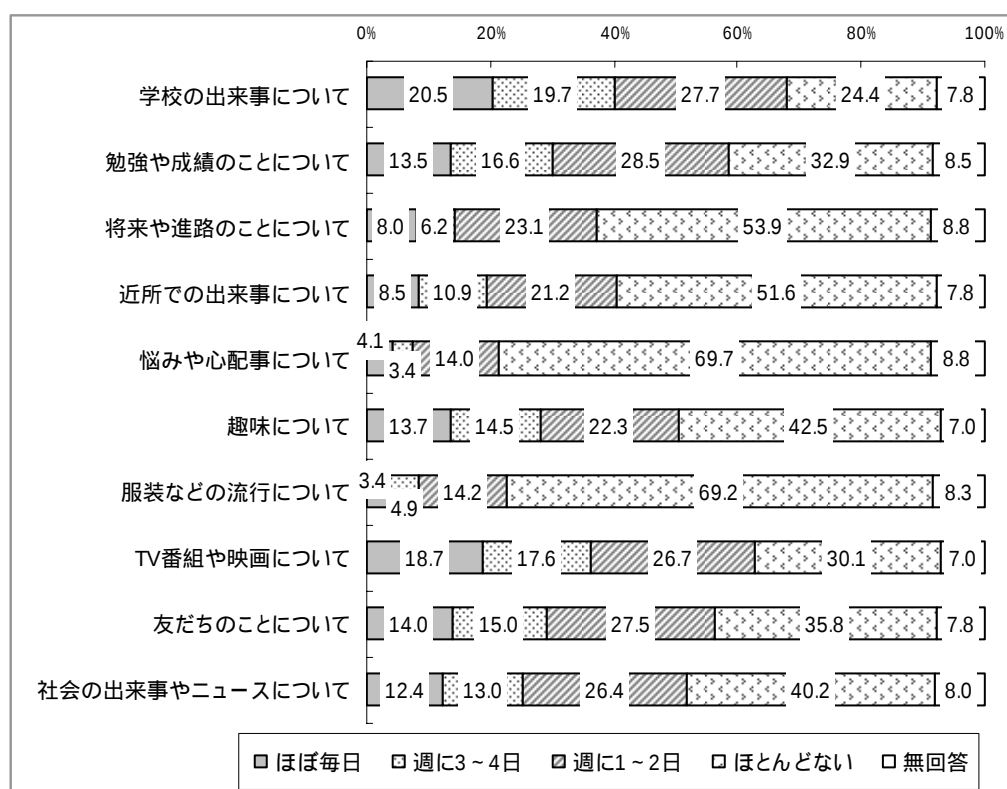
前回調査では、「おふろのじゅんび・そうじ」は「風呂そうじ」、「くつ(うわばき)をあらう」は「靴をあらう」、「ふとんのあげおろし・ベッドをととのえる」は「ふとんをしく・たたむ」となっている。

(4) 親子関係

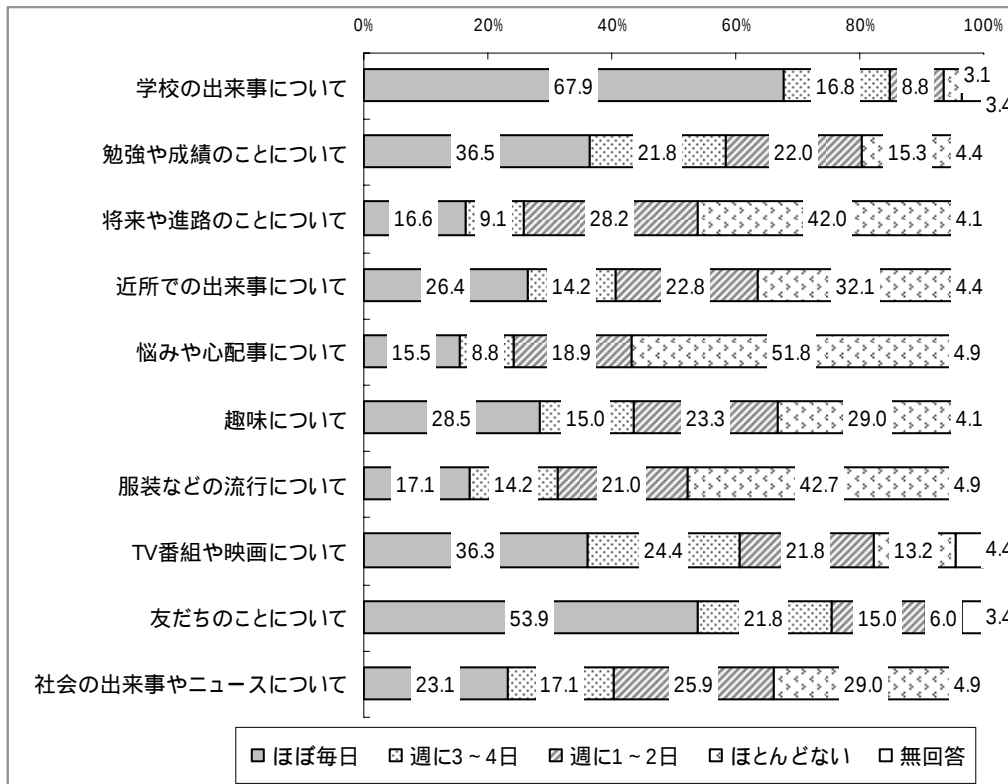
父親との会話の頻度を聞いたところ、いずれの内容も「ほぼ毎日」という人の割合は約2割以下となっています。「学校の出来事について」「勉強や成績のことについて」「TV番組や映画について」「友だちのことについて」では、他の内容に比べて会話の頻度が高くなっています。一方、「悩みや心配事について」「服装などの流行について」では会話の頻度が低くなっており、では、「ほとんどない」という人の割合が69.7%となっています。

母親との会話の頻度を聞いたところ、全体的に父親よりも頻度の高い人の割合が高くなっています。「学校の出来事について」「友だちのことについて」は、他の内容に比べても会話の頻度が高くなっており、「ほぼ毎日」という人の割合は、で67.9%、で53.9%となっています。一方、「将来や進路のことについて」「悩みや心配事について」「服装などの流行について」では、会話の頻度が低くなっており、では、「ほとんどない」という人の割合が51.8%となっています。

図表 III-14 父親との会話の頻度[N=386]

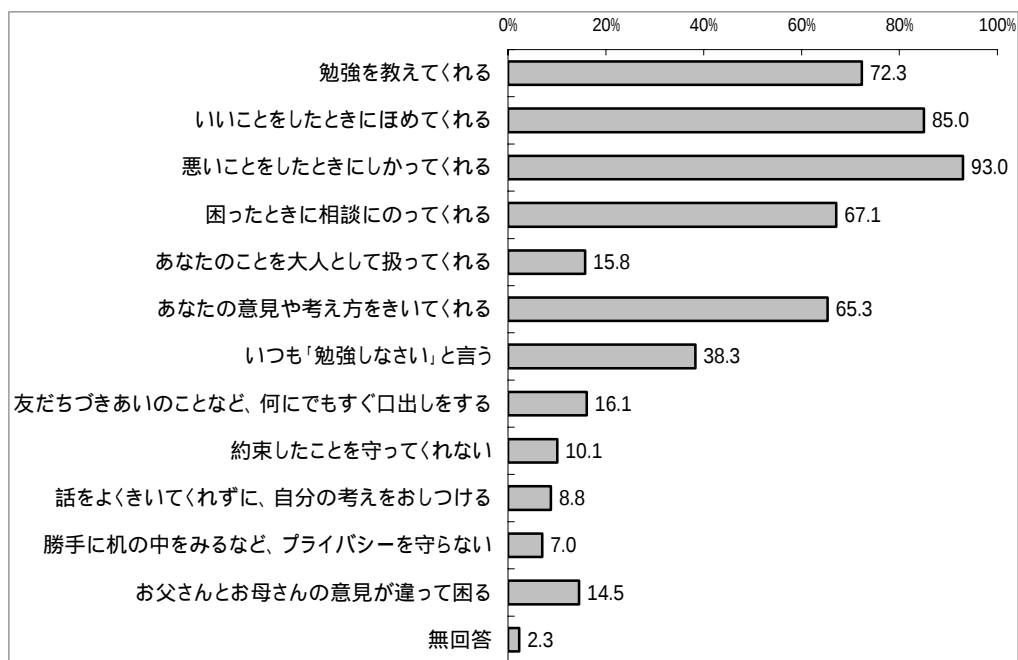


図表 III-15 母親との会話の頻度[N=386]



親との関係について聞いたところ、「悪いことをしたときにしかってくれる」(93.0%)、「いいことをしたときにほめてくれる」(85.0%)、「勉強を教えてくれる」(72.3%)の順に高い割合となっています。

図表 III-16 親との関係について[N=386 ; 複数回答]

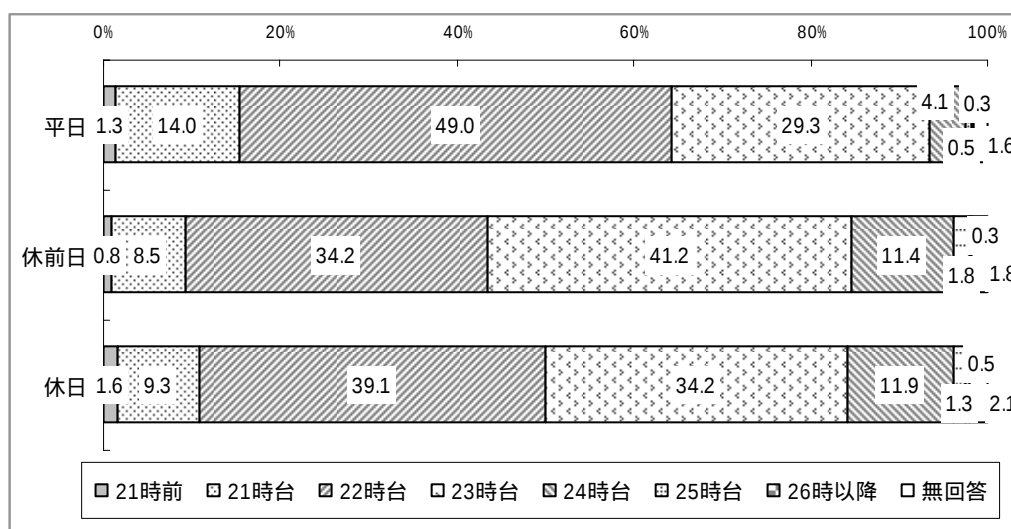


3. 普段の生活の様子

(1) 基本生活時間

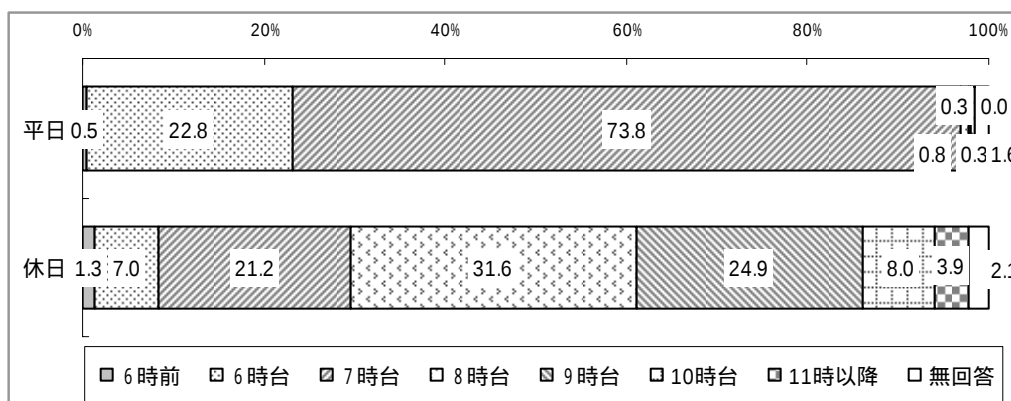
平日の就寝時間は、「22 時台」(49.0%)、「23 時台」(29.3%)の順に高い割合となっています。休前日の就寝時間は、「23 時台」(41.2%)、「22 時台」(34.2%)の順に高い割合となっています。休日の就寝時間は、「22 時台」(39.1%)、「23 時台」(34.2%)の順に高い割合となっています。休前日や休日では、平日に比べて就寝時間が遅くなっており、「24 時台」の割合が平日では 4.1%であるのに対し、休前日では 11.4%、休日では 11.9%となっています。

図表 III-17 平日・休前日・休日の就寝時間[N=386]



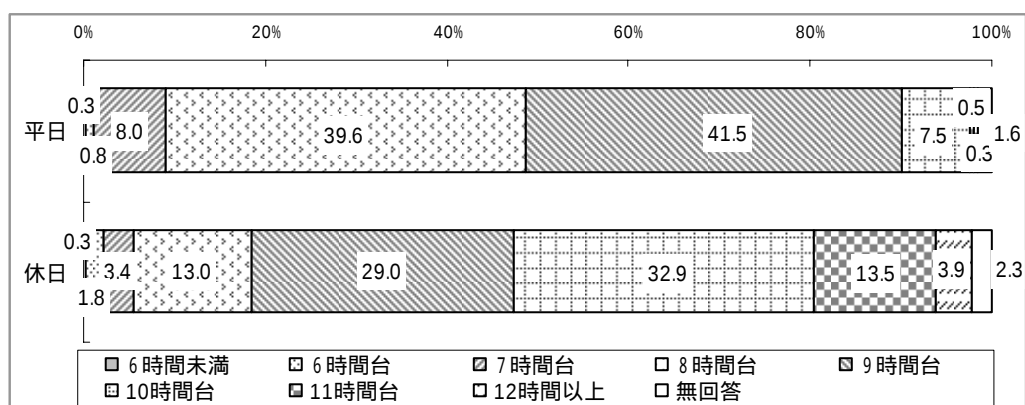
平日の起床時間は、「7 時台」の割合が最も高く 73.8%、次いで、「6 時台」の割合が高く 22.8%となっています。休日の起床時間は平日に比べて分散しており、割合の高い順に、「8 時台」(31.6%)、「9 時台」(24.9%)、「7 時台」(21.2%)となっています。休日は平日に比べて起床時間が遅くなっています。

図表 III-18 平日・休日の起床時間[N=386]



平日の睡眠時間は、「9時間台」(41.5%)と「8時間台」(39.6%)の割合が高くなっています。休日の睡眠時間は平日に比べて分散しており、割合の高い順に、「10時間台」(32.9%)、「9時間台」(29.0%)となっています。休日は平日に比べて睡眠時間が長くなっており、「11時間台」という人の割合も13.5%となっています。

図表 III-19 平日・休日の睡眠時間[N=386]

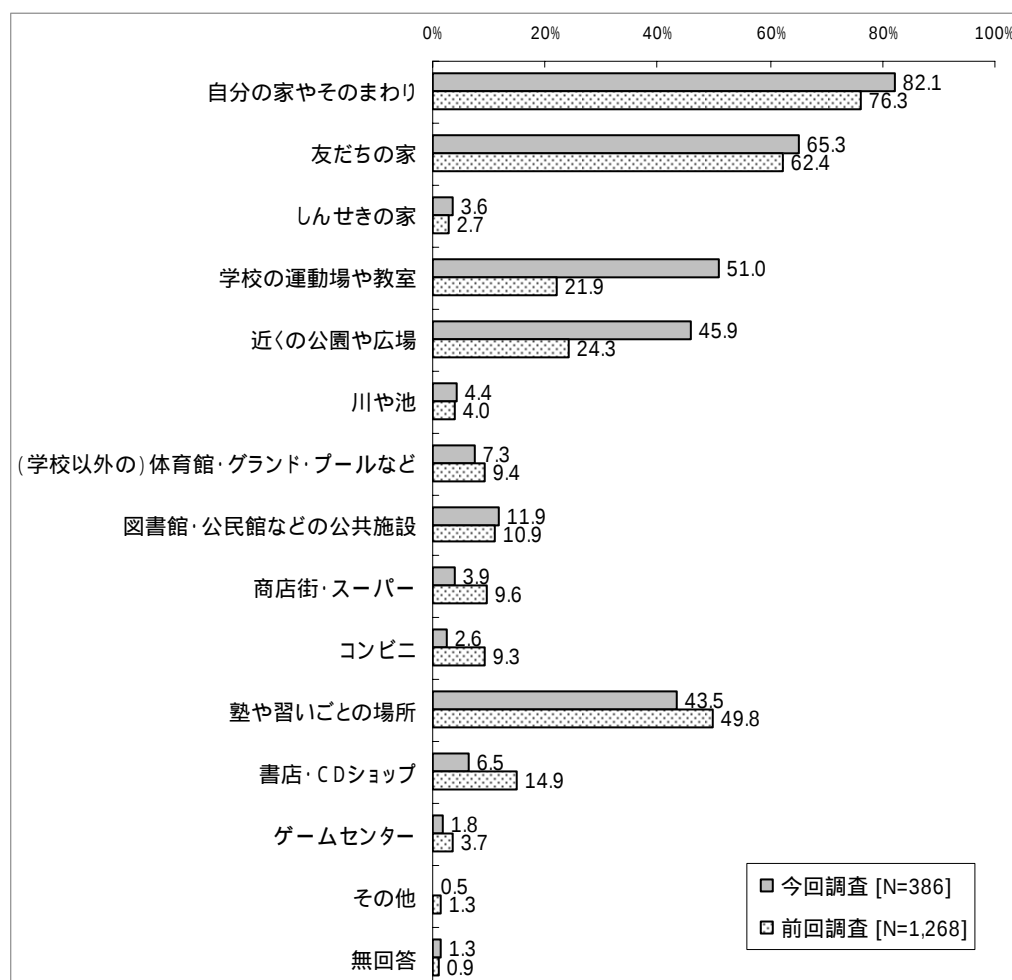


(2) 平日の放課後の過ごし方

平日の放課後にいる場所を聞いたところ、「自分の家やそのまわり」という人の割合が最も高く 82.1%、次いで、「友だちの家」(65.3%)、「学校の運動場や教室」(51.0%)の順に高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「学校の運動場や教室」(+ 29.1 ポイント)、「近くの公園や広場」(+ 21.6 ポイント)という人の割合が上昇しています。

図表 III-20 平日の放課後にいる場所[複数回答]

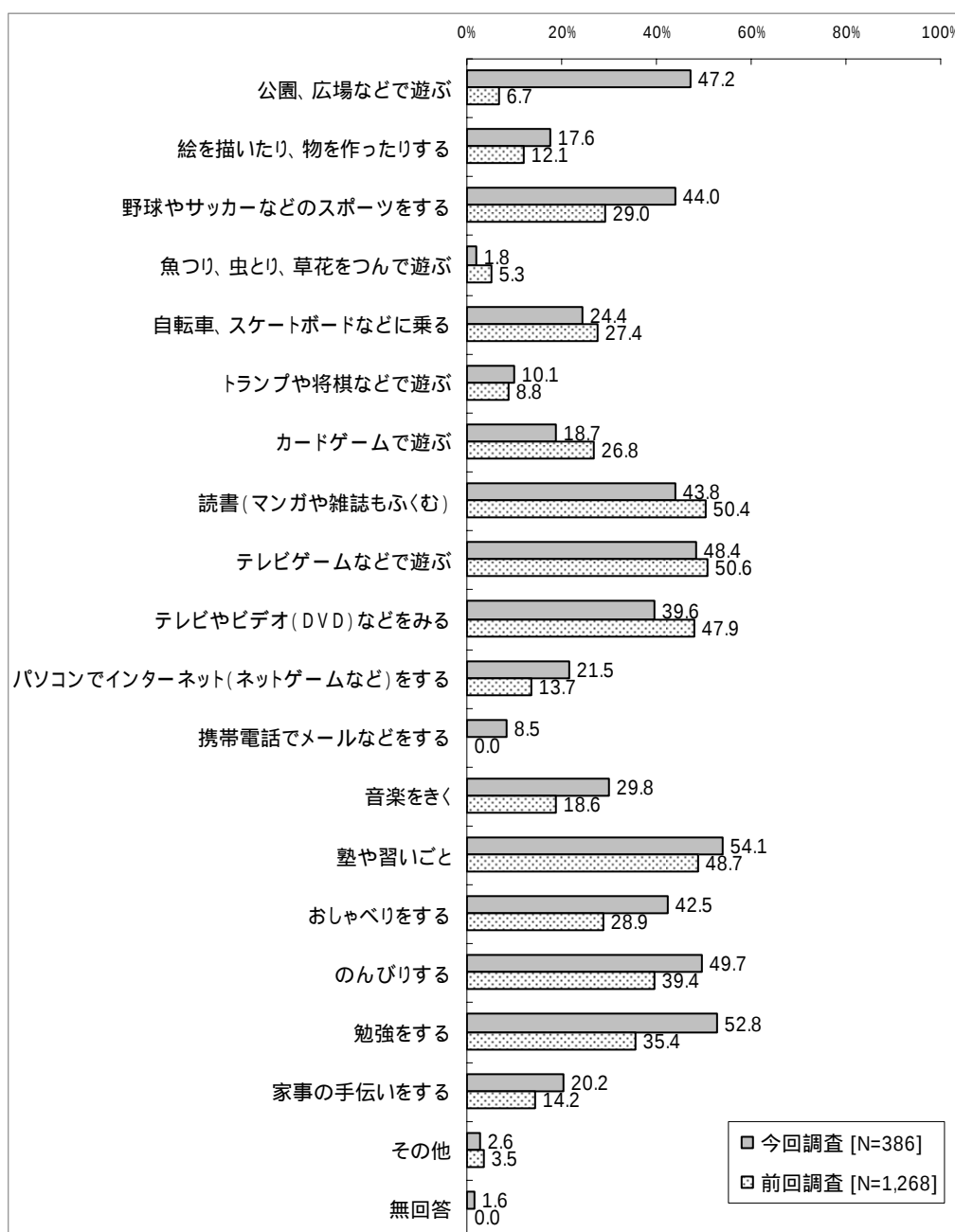


前回調査では、「学校の運動場や教室」は「学校の運動場・体育館・教室」、「近くの公園や広場」は「公園や広場」、「(学校以外の) 体育館・グラウンド・プールなど」は「体育館・グラウンド・プールなど」、「書店・CDショップ」は「本屋・ビデオ店」となっている。

平日の放課後にしていることを聞いたところ、「塾や習いごと」(54.1%)、「勉強をする」(52.8%)、「のんびりする」(49.7%)の順に高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「公園、広場などで遊ぶ」「野球やサッカーなどのスポーツをする」「音楽をきく」「おしゃべりをする」「のんびりする」「勉強をする」等の割合が上昇しています。

図表 III-21 平日の放課後にしていること[複数回答]



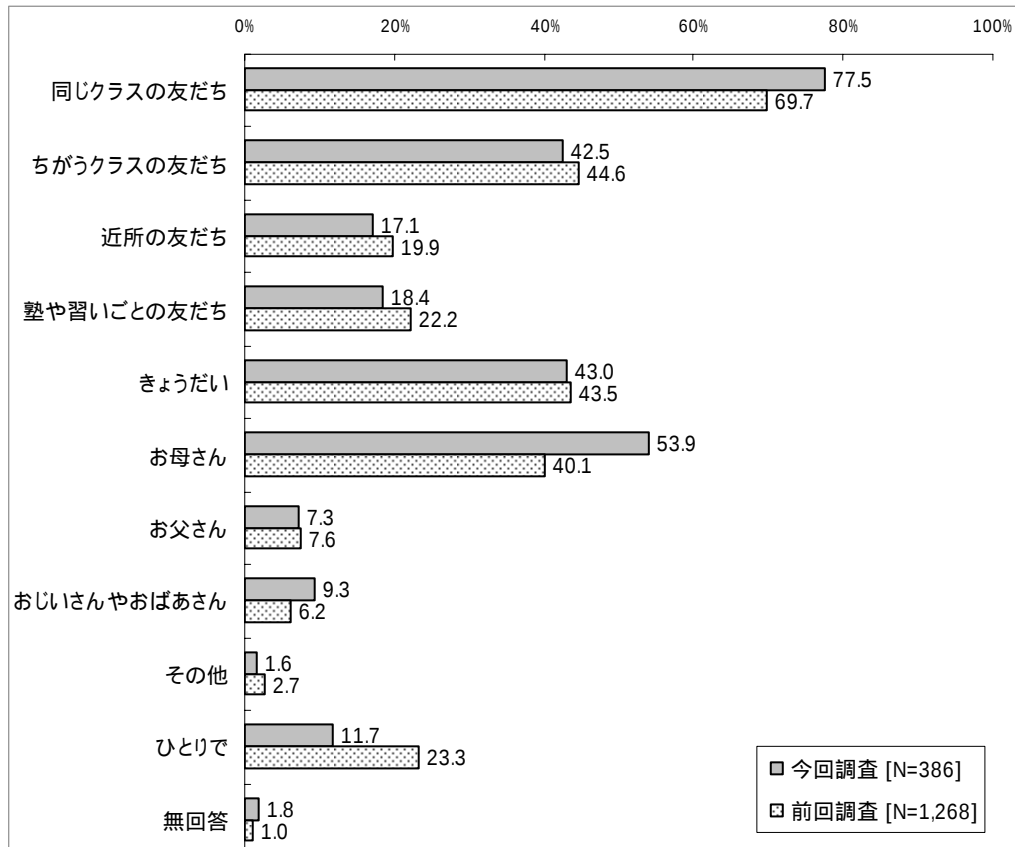
前回調査では、「公園、広場などで遊ぶ」は「公園など遊具や砂場で遊ぶ」、「自転車、スケートボードなどに乗る」は「自転車、一輪車、ローラースケート、キックボードに乗る」、「パソコンでインターネット(ネットゲームなど)をする」は「パソコン(インターネットやメール)をする」となっている。

「携帯電話でメールなどをする」は今回調査のみの選択肢である。

平日の放課後に一緒にいる人を聞いたところ、「同じクラスの友だち」という人の割合が最も高く 77.5%、次いで、「お母さん」(53.9%)、「きょうだい」(43.0%)、「ちがうクラスの友だち」(42.5%)の順に高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「同じクラスの友だち」(+7.8 ポイント)、「お母さん」(+13.8%)の割合が上昇しており、「ひとりで」の割合が11.6ポイント低下しています。

図表 III-22 平日の放課後に一緒にいる人[複数回答]

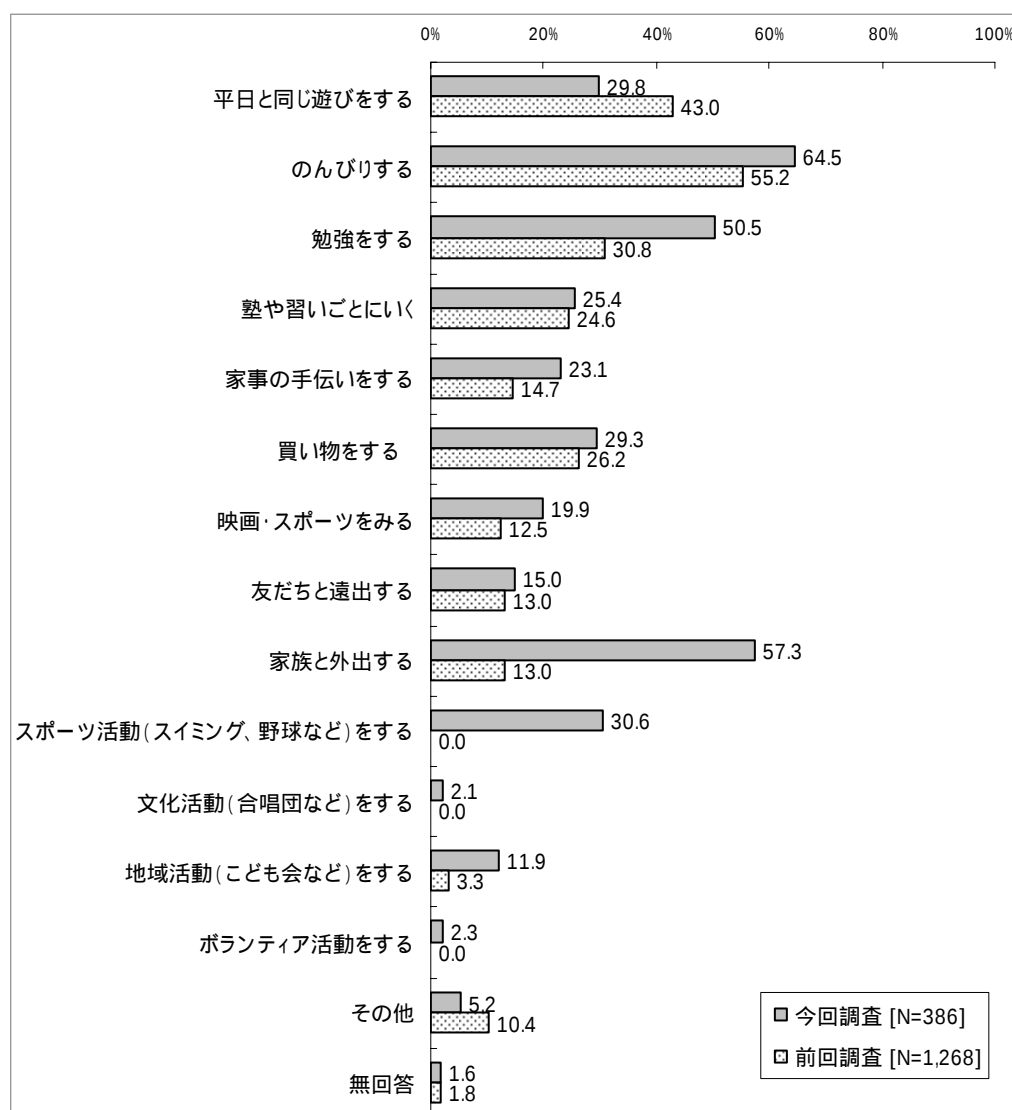


(3) 休みの日の過ごし方

休みの日の過ごし方について聞いたところ、「のんびりする」(64.5%)、「家族と外出する」(57.3%)、「勉強をする」(50.5%)の順に高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「平日と同じ遊びをする」という人の割合が低下しているのに対し、それ以外の過ごし方では割合が上昇しており、特に「勉強をする」「家族と外出する」という人の割合が上昇しています。

図表 III-23 休みの日の過ごし方[複数回答]

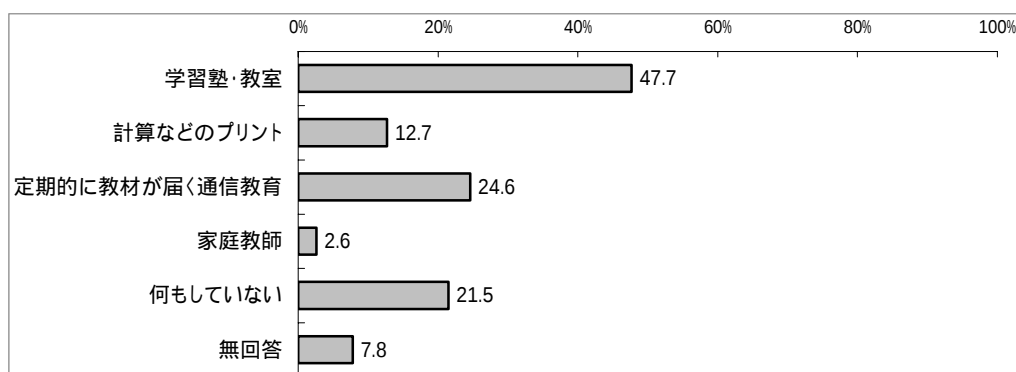


前回調査では、「家族と外出する」は「家族とハイキングや旅行に出かける」、「地域活動(こども会など)をする」は「地域活動やボランティア活動をする」となっている。
「スポーツ活動(スイミング、野球など)をする」「文化活動(合唱団など)をする」「ボランティア活動をする」は、今回調査のみの選択肢である。

(4) 塾や習いごと

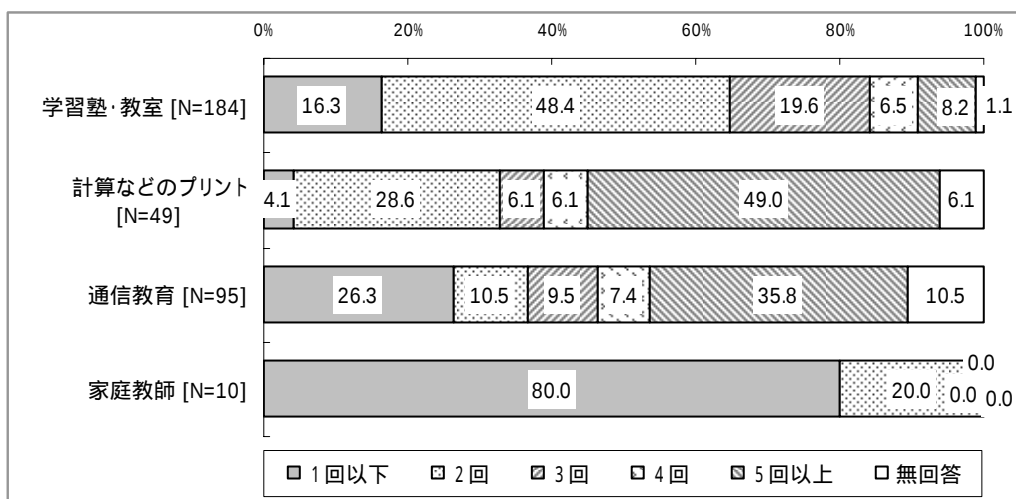
塾や通信教育をしているか聞いたところ、「学習塾・教室」という人の割合が最も高く47.7%、次いで、「定期的に教材が届く通信教育」(24.6%)、「何もしていない」(21.5%)の順に高い割合となっています。

図表 III-24 塾や通信教育をしているか[N=386；複数回答]



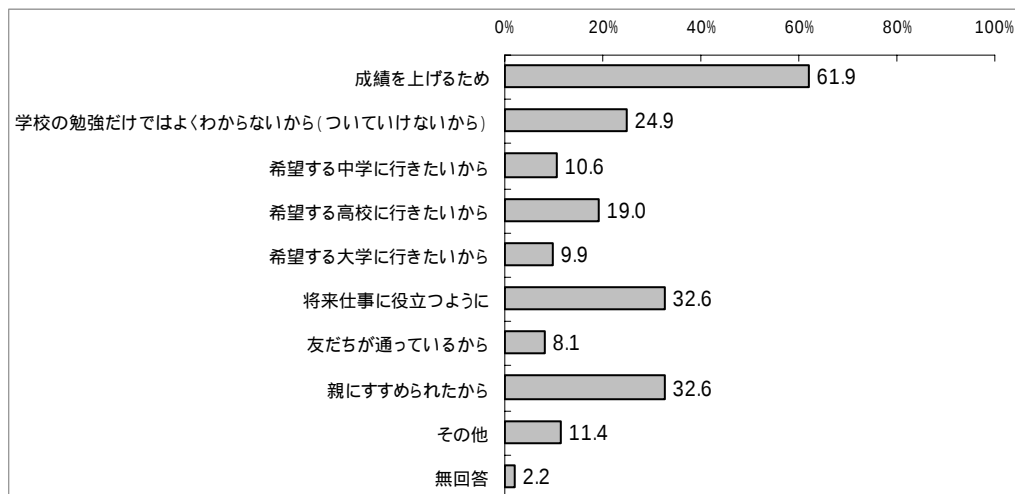
塾や通信教育をしていると回答した人に、1週あたりの回数を聞いたところ、「学習塾・教室」では、「2回」の割合が最も高くなっています。「計算などのプリント」では、「5回以上」(49.0%)、「2回」(28.6%)の順に高い割合となっています。「通信教育」では、「5回以上」(35.8%)、「1回以下」(26.3%)の順に高い割合となっています。

図表 III-25 塾や通信教育の1週あたりの回数



塾や通信教育をする理由を聞いたところ、「成績を上げるため」という人の割合が最も高く 61.9%、次いで、「将来仕事に役立つように」(32.6%)、「親にすすめられたから」(32.6%)の割合が高くなっています。

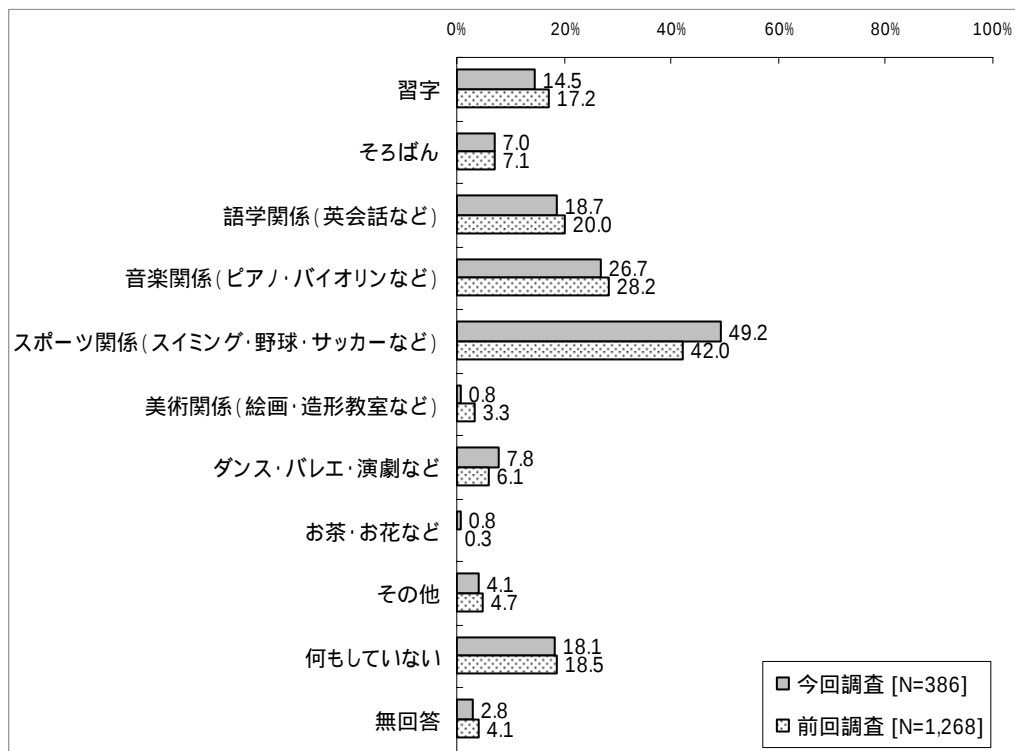
図表 III-26 塾や通信教育をする理由[N=273；複数回答]



塾以外の習いごとをしているかを聞いたところ、「スポーツ関係(スイミング・野球・サッカーなど)」の割合が最も高く 49.2%、次いで、「音楽関係(ピアノ・バイオリンなど)」の割合が高く 26.7%となっています。

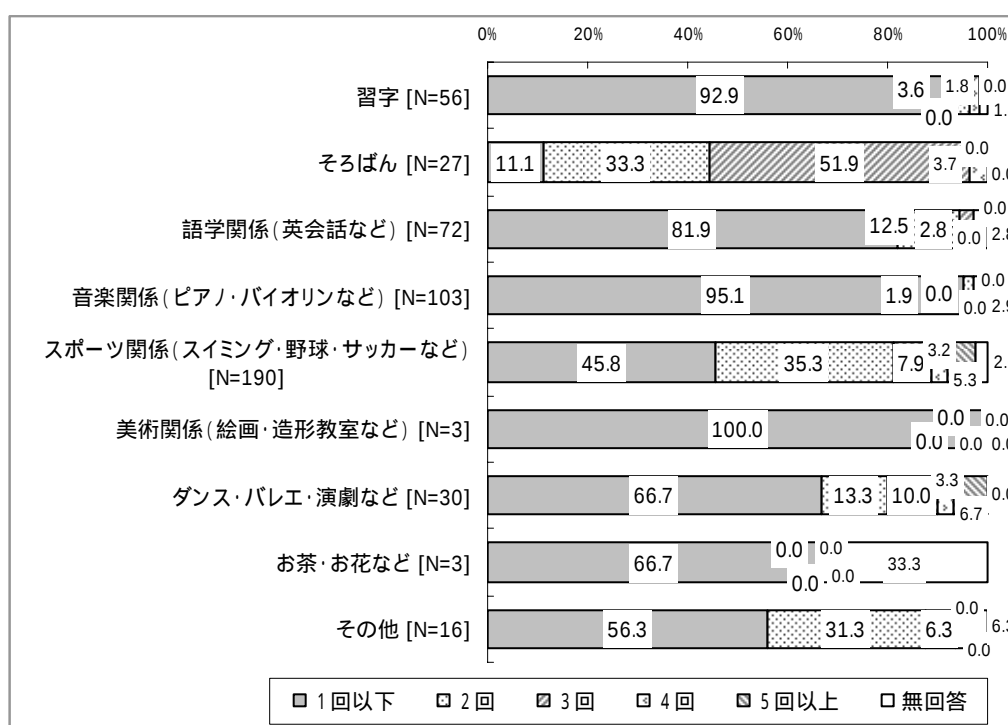
前回調査と比較すると、「スポーツ関係(スイミング・野球・サッカーなど)」の割合が 7.2 ポイント上昇しています。

図表 III-27 塾以外の習いごとをしているか[複数回答]



塾以外の習いごとをしていると回答した人に、1週あたりの回数を聞いたところ、大半の習いごとでは、「1回以下」の割合が最も高くなっています。「そろばん」では、「3回」の割合が最も高く51.9%となっています。また、「スポーツ関係（スイミング・野球・サッカーなど）」では、「1回以下」（45.8%）に次いで、「2回」の割合も高く35.3%となっています。

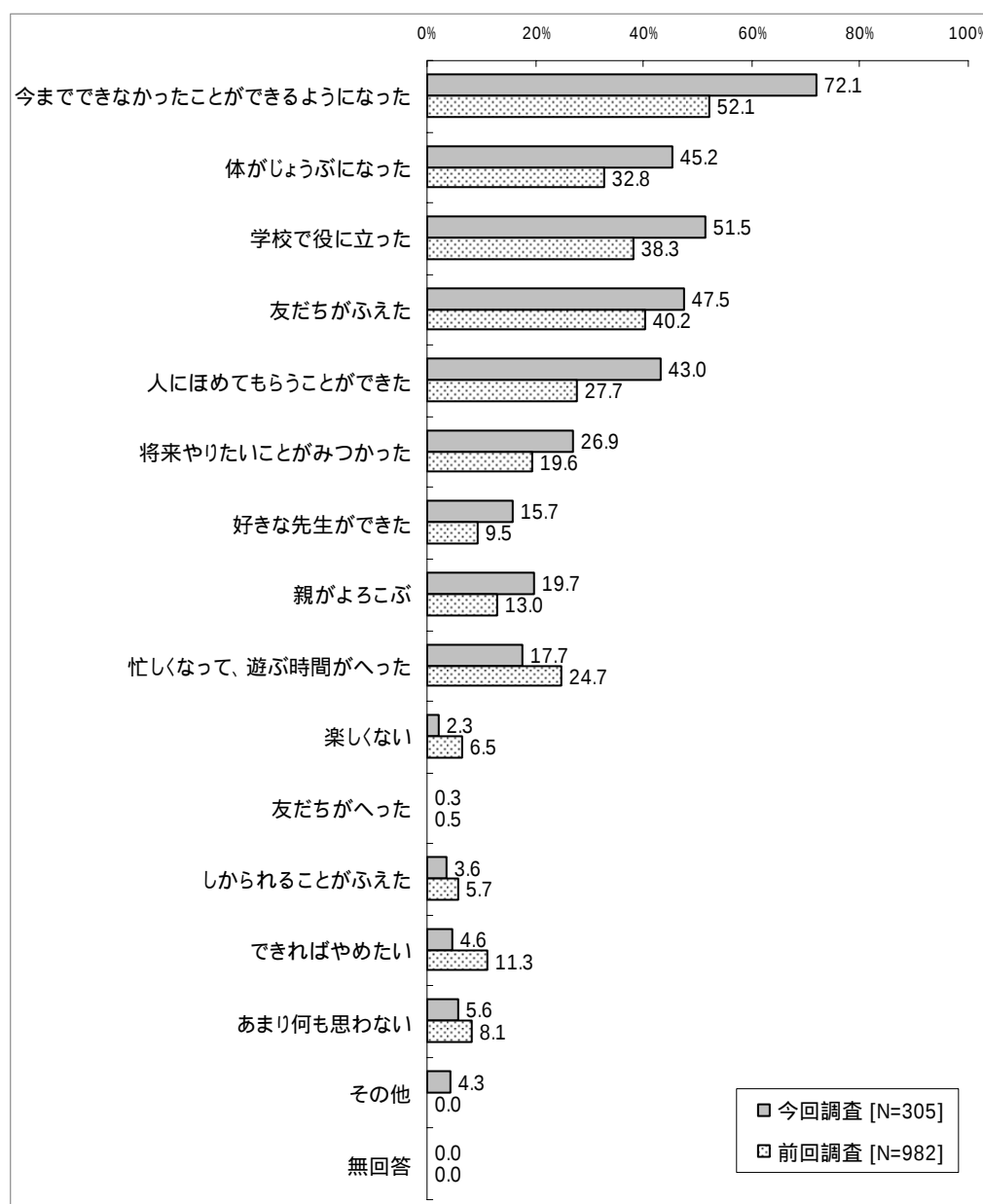
図表 III-28 塾以外の習いごとの1週あたりの回数



習いごとをして思うことを聞いたところ、「今までできなかったことができるようになった」という人の割合が最も高く 72.1%、次いで「学校で役に立った」という人の割合が高く 51.5%となっています。

前回調査と比較すると、メリットを感じている内容は上昇しており、デメリットを感じている内容は低下しています。具体的には、「今までできなかったことができるようになった」(+20.0 ポイント)「人にほめてもらうことができた」(+15.3 ポイント)等の割合が上昇しており、「忙しくなって、遊ぶ時間が減った」(-7.0 ポイント)「できればやめたい」(-6.7 ポイント)の割合が低下しています。

図表 III-29 習いごとをして思うこと[複数回答]



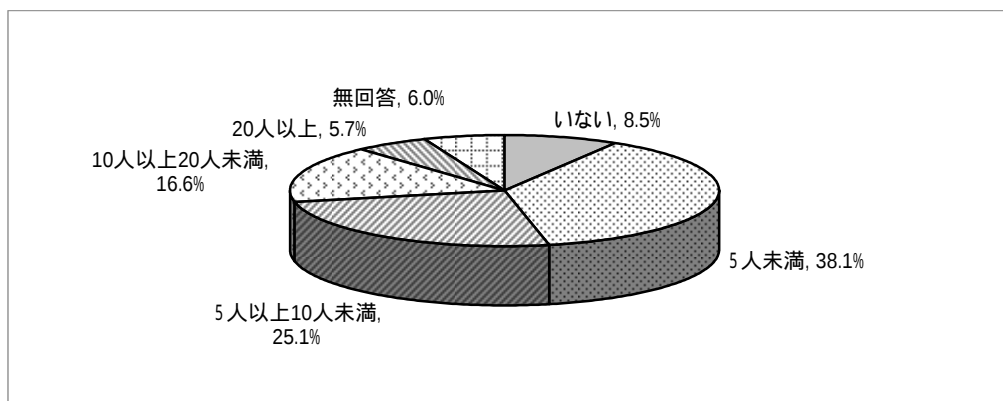
前回調査は、「その他」と無回答を除いた集計結果である。

4 . 友人関係

(1) 何でも話せる友だちの人数

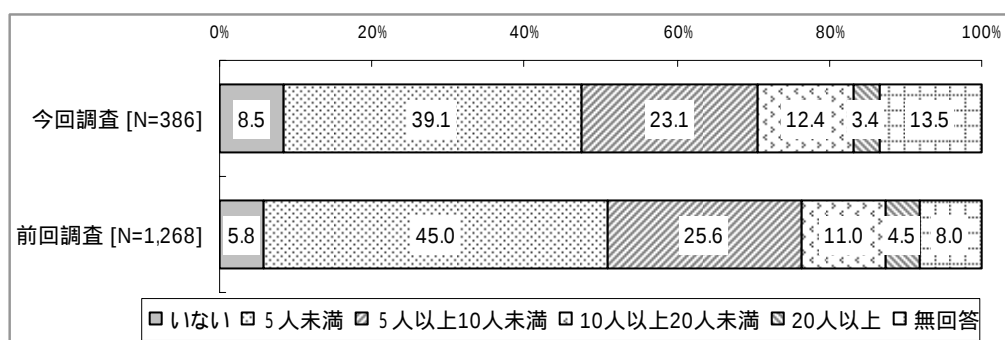
悩みごとや自分が話したいことなど何でも話せる友だちの人数を聞いたところ、「5人未満」(38.1%)、「5人以上10人未満」(25.1%)の順に高い割合となっています。また、「いない」という人の割合は8.5%となっています。

図表 III-30 悩みごとや自分が話したいことなど何でも話せる友だちの人数[N=386]



うち、同性の友だちの人数は、「5人未満」(39.1%)、「5人以上10人未満」(23.1%)の順に高い割合となっています。前回調査と比較すると、「いない」「10人以上20人未満」の割合が上昇しており、「5人未満」「5人以上10人未満」の割合が低下しています。

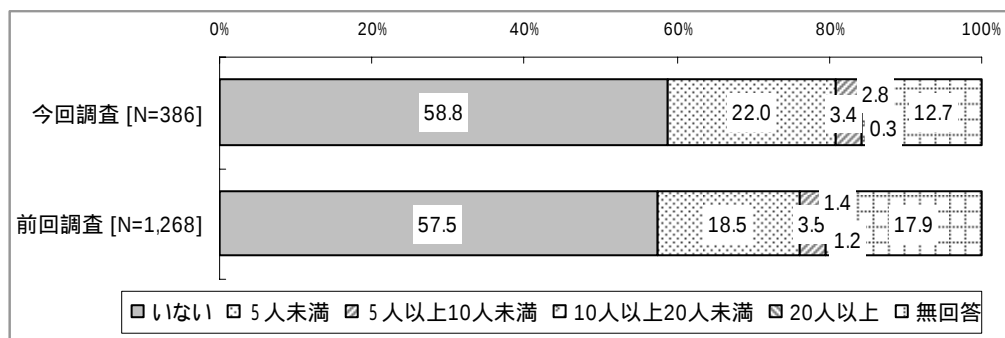
図表 III-31 何でも話せる同性の友だちの人数



「何でも話せる同性の友だちの人数」は、前回調査のみの設問であるため、前問の「何でも話せる友だちの人数」から、次問の「うち、異性の友だちの人数」を差し引いたものを、今回調査の集計結果としている。

また、異性の友だちの人数は、「いない」の割合が最も高く 58.8%、次いで、「5 人未満」の割合が高く 22.0%となっています。前回調査と比較すると、「5 人未満」の割合が上昇しています。

図表 III-32 何でも話せる異性の友だちの人数

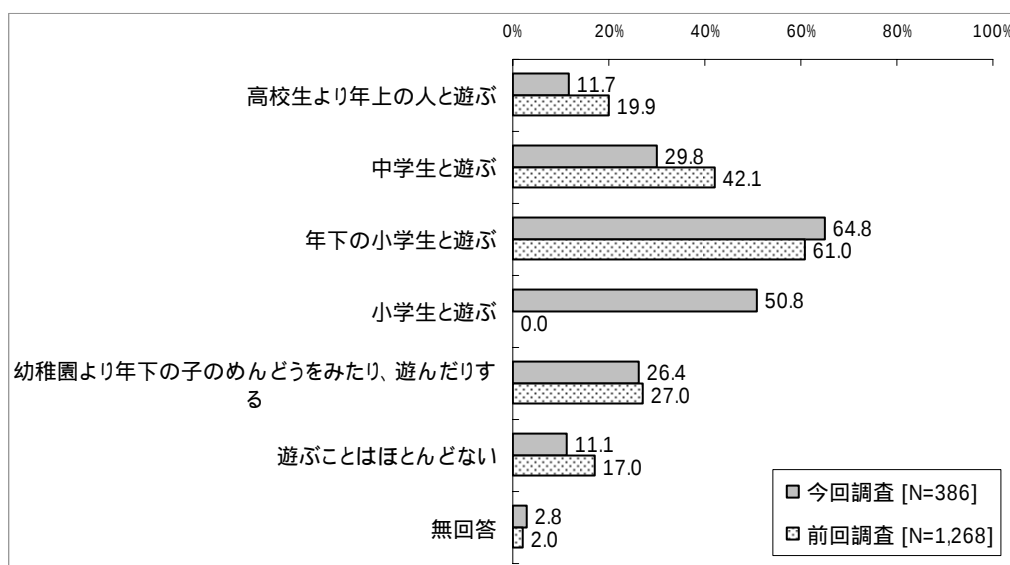


(2) 年齢の異なる子とのかかわり

学年のちがう子と遊ぶことがあるか聞いたところ、「年下の小学生と遊ぶ」という人の割合が最も高く 64.8%、次いで、「小学生と遊ぶ」という人の割合が高く 50.8%となっています。

前回調査と比較すると、「高校生より年上の人と遊ぶ」(- 8.2 ポイント)、「中学生と遊ぶ」(- 12.3 ポイント)「遊ぶことはほとんどない」(- 5.9 ポイント)という人の割合が低下しています。

図表 III-33 学年のちがう子と遊ぶことがあるか[複数回答]

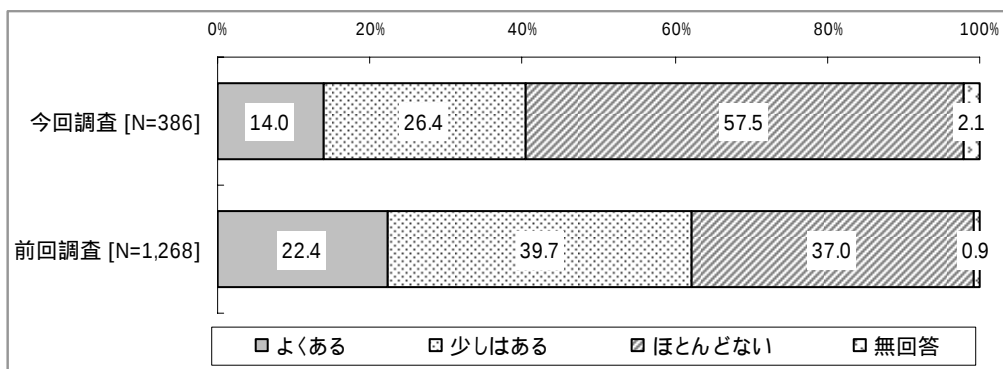


「小学生と遊ぶ」は今回調査のみの選択肢である。

赤ちゃんをだっこしたり、あやしたりすることがあるか聞いたところ、「ほとんどない」という人の割合が最も高く 57.5%、次いで、「少しはある」という人の割合が高く 26.4% となっています。

前回調査と比較すると、経験のある人の割合が低下しており、「ほとんどない」という人の割合が 20.5 ポイント上昇しています。

図表 III-34 赤ちゃんをだっこしたり、あやしたりすることがあるか

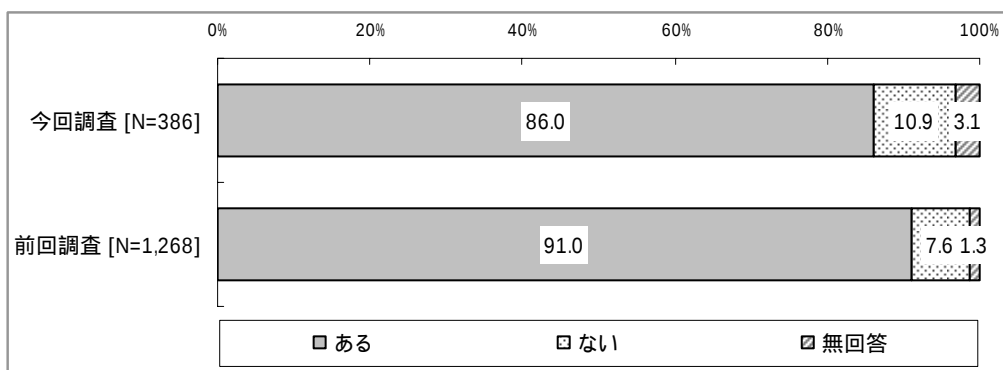


(3) ケンカ、いじめに対する考え

ケンカをした経験の有無については、「ある」という人が 86.0%、「ない」という人が 10.9% となっています。

前回調査と比較すると、「ある」という人の割合が 5.0 ポイント低下しています。

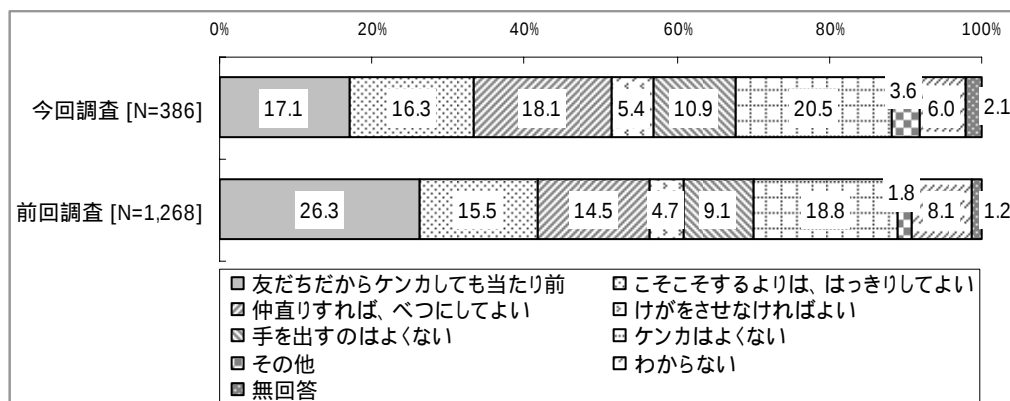
図表 III-35 ケンカをした経験の有無



友だち同士のケンカを見たときに思うことを聞いたところ、割合の高い順に、「ケンカはよくない」(20.5%)、「仲直りすれば、べつにしてよい」(18.1%)、「友だちだからケンカしても当たり前」(17.1%)となっています。

前回調査と比較すると、「友だちだからケンカしても当たり前」という人の割合は 9.2 ポイント低下しており、「仲直りすれば、べつにしてよい」という人の割合は 3.6 ポイント上昇しています。

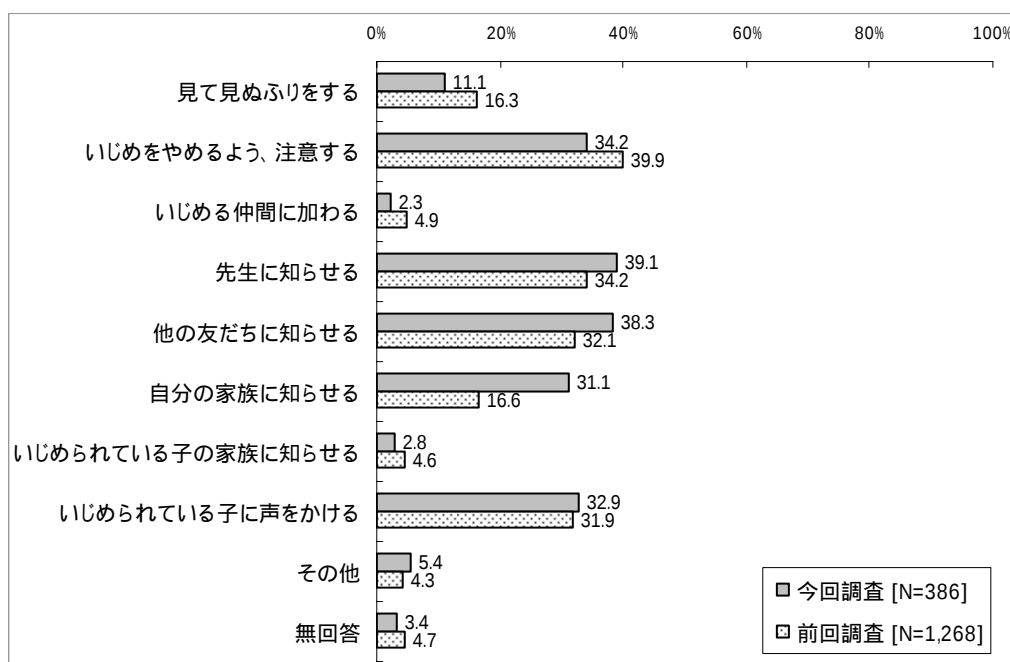
図表 III-36 友だち同士のケンカを見たときに思うこと



いじめを見たときの対処方法を聞いたところ、割合の高い順に、「先生に知らせる」(39.1%)、「他の友だちに知らせる」(38.3%)、「いじめをやめるよう、注意する」(34.2%)となっています。

前回調査と比較すると、「見て見ぬふりをする」(- 5.2 ポイント)、「いじめをやめるよう、注意する」(- 5.7 ポイント)の割合が低下しており、「他の友だちに知らせる」(+ 6.2 ポイント)、「自分の家族に知らせる」(+ 14.5 ポイント)の割合が上昇しています。

図表 III-37 いじめを見たときの対処方法[複数回答]



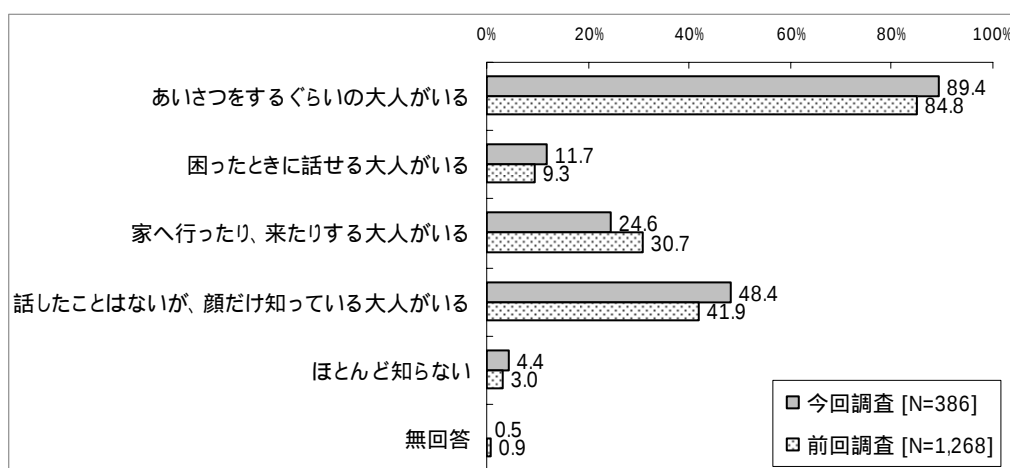
5 . 地域での様子

(1) 地域の大人とのかかわり

近所に知っている大人がいるか聞いたところ、「あいさつをするぐらいの大人がいる」という人の割合が最も高く 89.4%、次いで、「話したことはないが、顔だけ知っている大人がいる」という人の割合が高く 48.4%となっています。

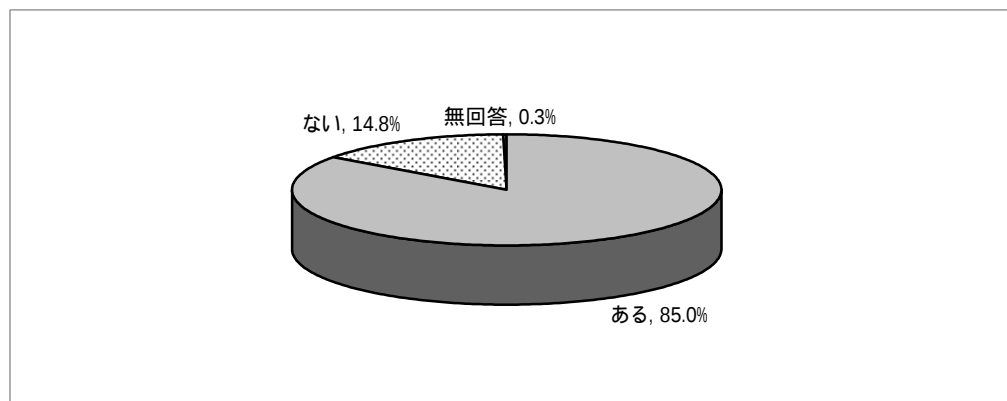
前回調査と比較すると、「あいさつをするぐらいの大人がいる」(+ 4.6 ポイント)、「話したことはないが、顔だけ知っている大人がいる」(+ 6.5 ポイント)という人の割合が上昇しており、「家へ行ったり、来たりする大人がいる」(- 6.1 ポイント)という人の割合が低下しています。

図表 III-38 近所に知っている大人がいるか[複数回答]



親や学校の先生以外の人にほめられたり、しかられたことがあるかを聞いたところ、「ある」という人は 85.0%、「ない」という人は 14.8%となっています。

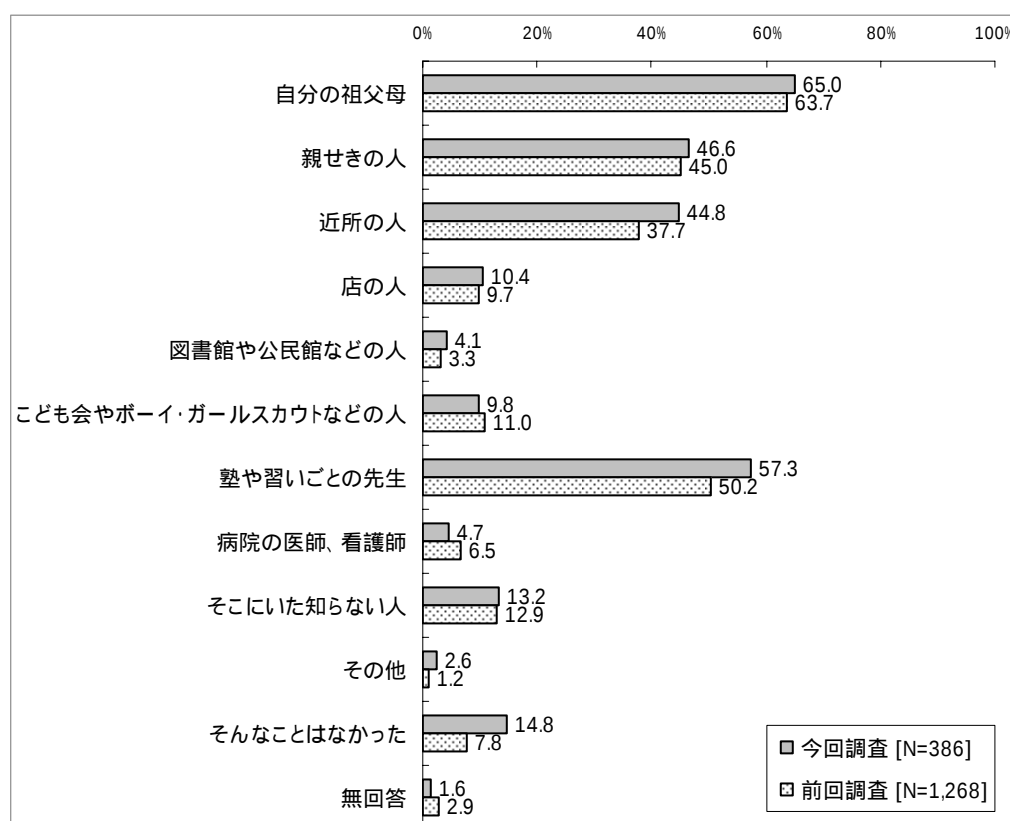
図表 III-39 親や学校の先生以外の人にほめられたり、しかられたことがあるか[N=386]



親や学校の先生以外の人にほめられたり、しかられたことが「ある」と回答した人に、ほめられた人を聞いたところ、「自分の祖父母」(65.0%)、「塾や習いごとの先生」(57.3%)が高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「近所の人」(+7.1ポイント)、「塾や習いごとの先生」(+7.1ポイント)という人の割合が上昇しています。

図表 III-40 ほめられた人[複数回答]

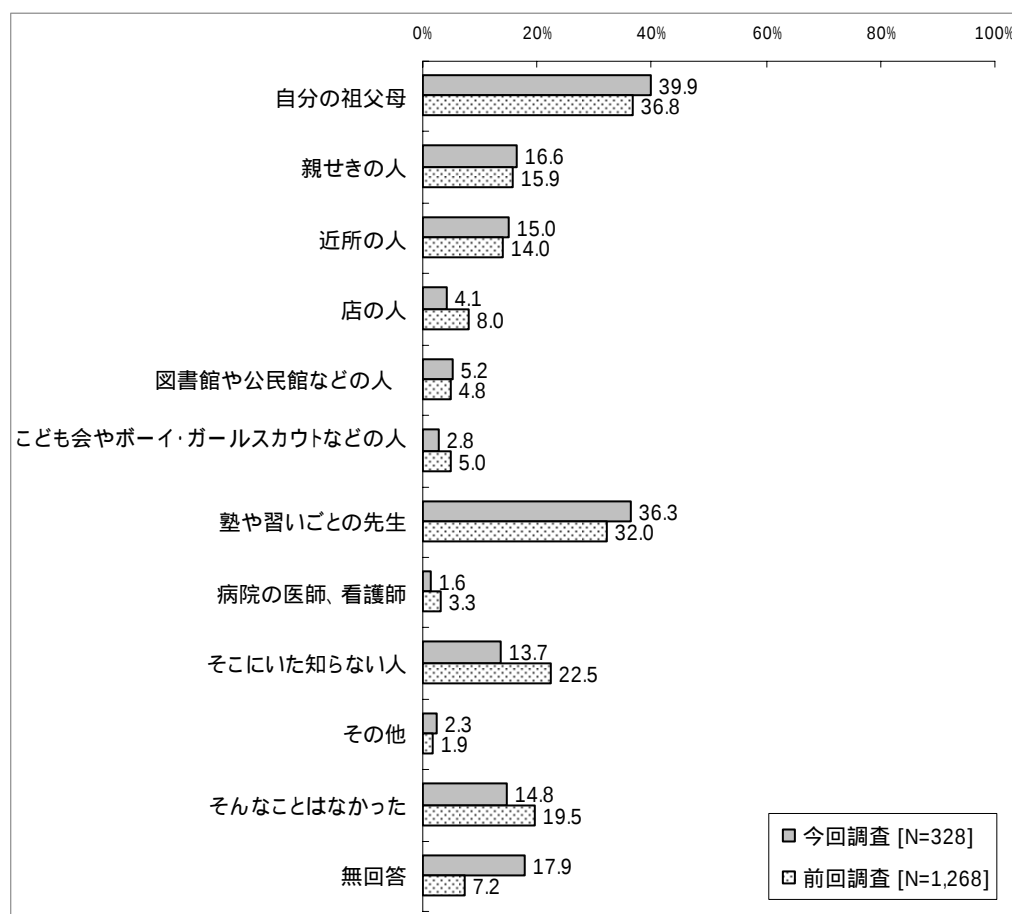


「そんなことはなかった」は前回調査のみの選択肢である。
 今回調査の集計結果は、前問で、親や学校の先生以外の人にほめられたり、しかられたことが「ない」と回答した人数を「そんなことはなかった」の実数とし、すべての選択肢について全体のサンプル数 386 に占める割合で集計している。

親や学校の先生以外の人にほめられたり、しかられたことが「ある」と回答した人に、しかられた人を聞いたところ、「自分の祖父母」(39.9%)、「塾や習いごとの先生」(36.3%)の順に高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「自分の祖父母」(+3.1ポイント)、「塾や習いごとの先生」(+4.3ポイント)という人の割合は上昇しており、「店の人」(-3.9ポイント)、「そこにいた知らない人」(-8.8ポイント)という人の割合は低下しています。

図表 III-41 しかられた人[複数回答]

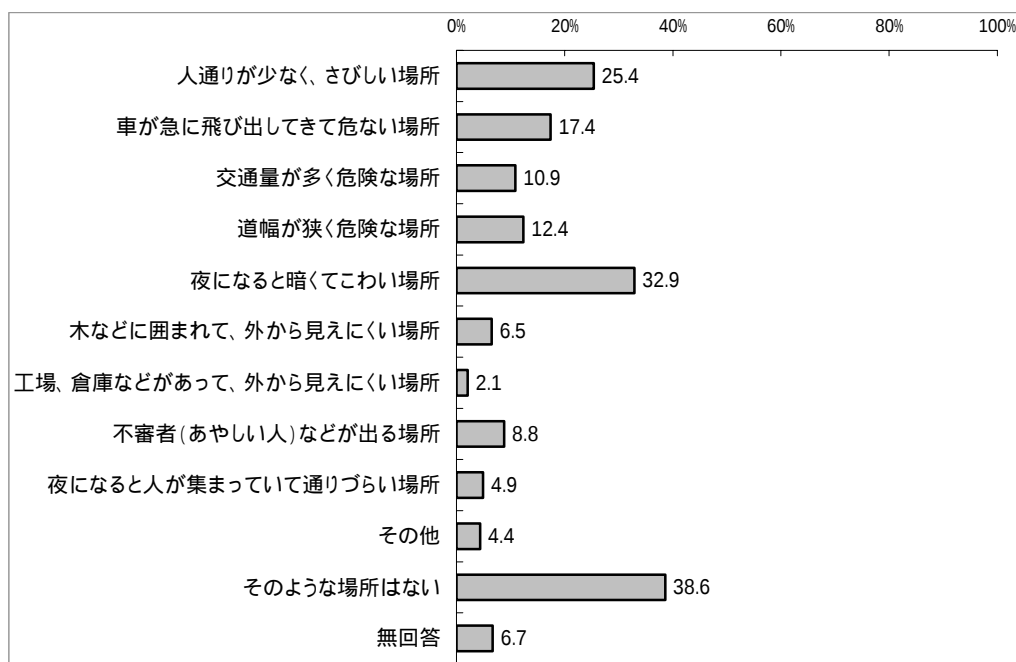


「そんなことはなかった」は前回調査のみの選択肢である。
 今回調査の集計結果は、前問で、親や学校の先生以外の人にほめられたり、しかられたことが「ない」と回答した人数を「そんなことはなかった」の実数とし、すべての選択肢について全体のサンプル数 386 に占める割合で集計している。

(2) 子どもの安全確保

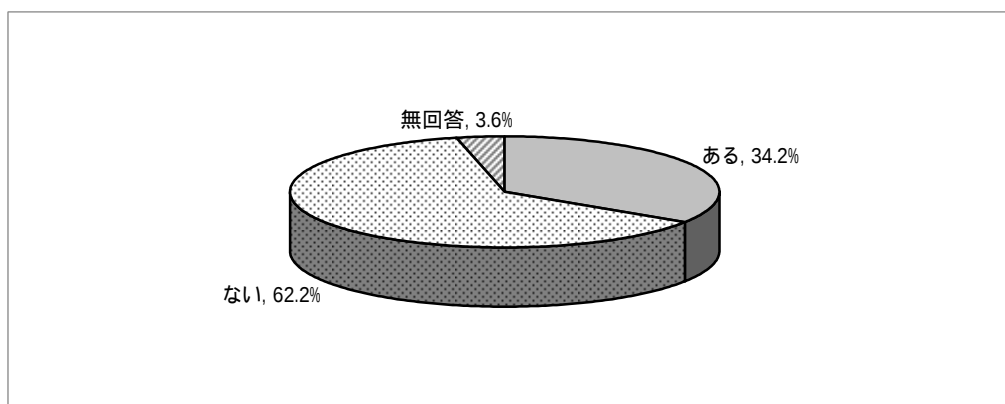
学校の行き帰りなど普段通る道で、こわい思いやいやな思いをした場所を聞いたところ、「そのような場所はない」という人の割合が最も高く 38.6% となっています。また、場所を回答した人の中では、「夜になると暗くてこわい場所」(32.9%) 「人通りが少なく、さびしい場所」(25.4%) の順に高い割合となっています。

図表 III-42 こわい思いやいやな思いをした場所[N=386；複数回答]



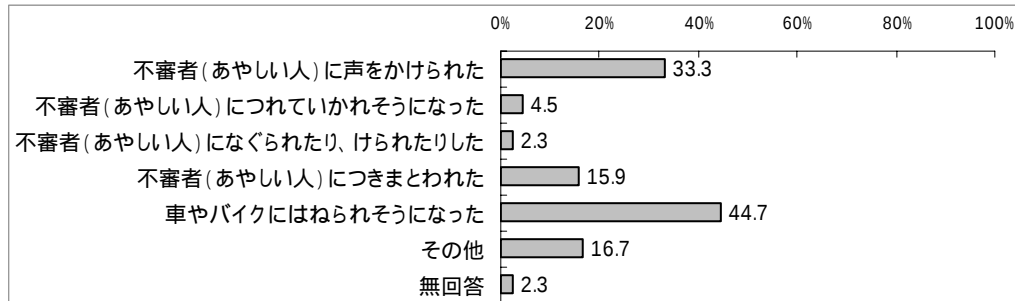
危ない目やこわい目にあったことがあるか聞いたところ、「ある」という人は 34.2%、「ない」という人は 62.2% となっています。

図表 III-43 危ない目やこわい目にあった経験の有無[N=386]



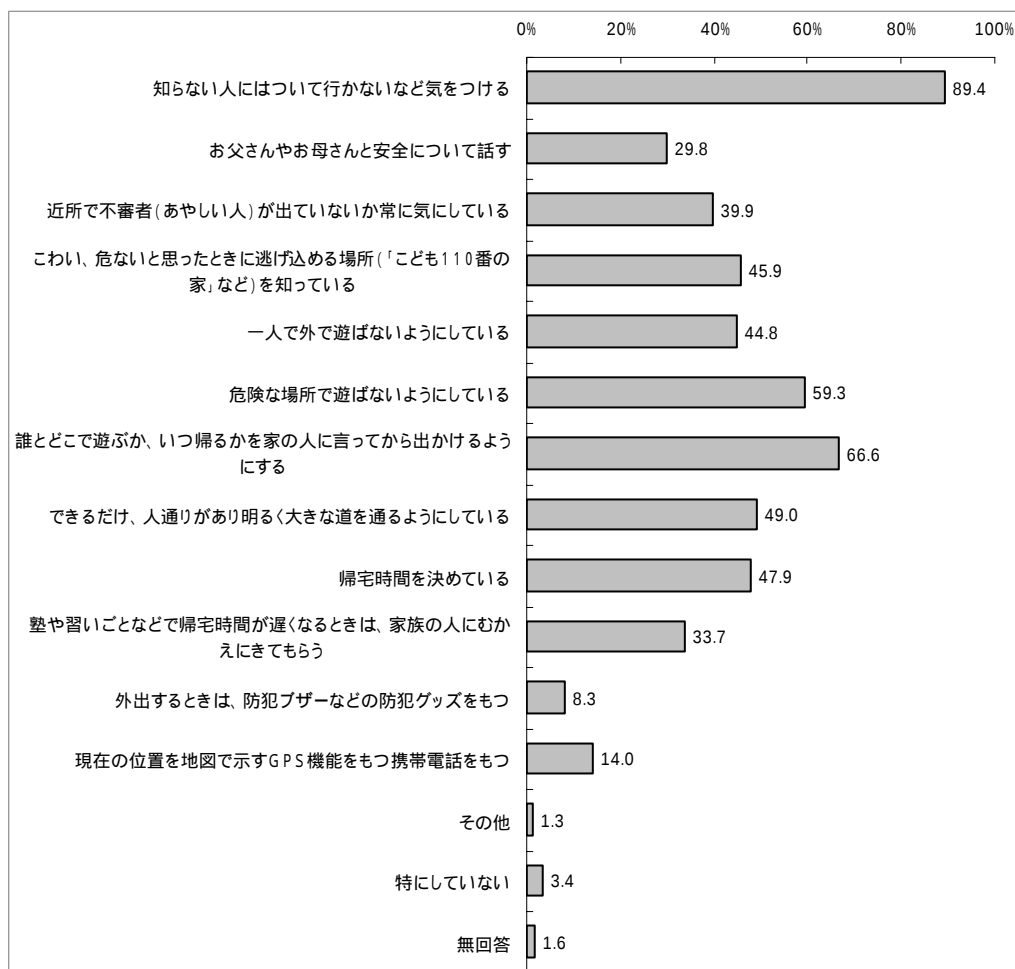
危ない目やこわい目にあったことが「ある」と回答した人に、その内容を聞いたところ、「車やバイクにはねられそうになった」(44.7%)、「不審者(あやしい人)に声をかけられた」(33.3%)が高い割合となっています。

図表 III-44 その内容[N=132 ; 複数回答]



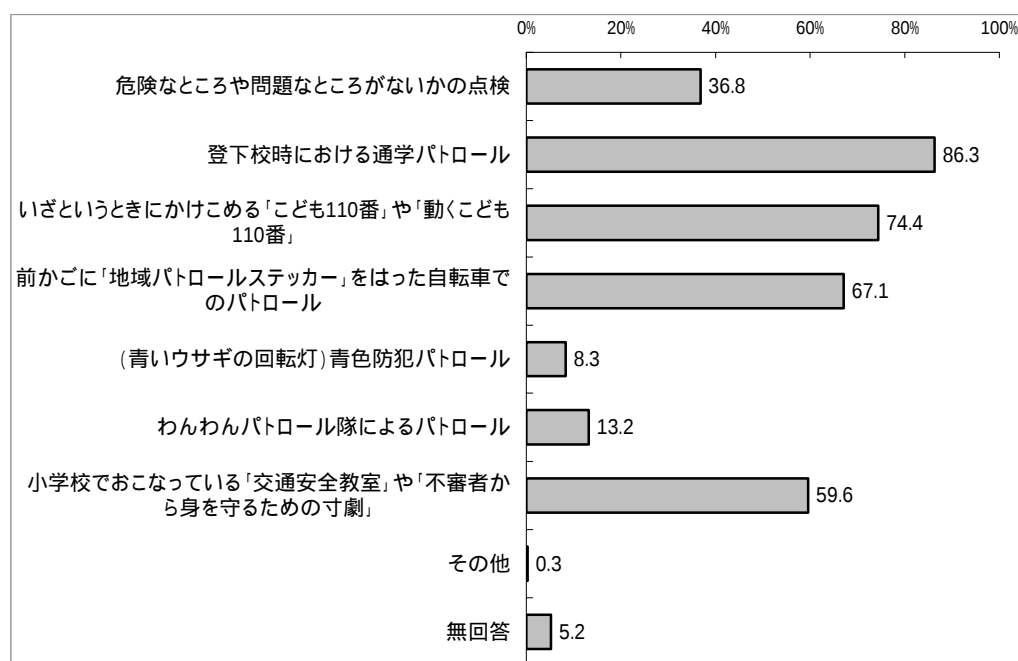
普段から、自分自身の安全のために気をつけていることを聞いたところ、「知らない人にはついて行かないなど気をつける」という人の割合が最も高く 89.4%、次いで、「誰とどこで遊ぶか、いつ帰るかを家の人に言ってから出かけるようにする」(66.6%)、「危険な場所で遊ばないようにしている」(59.3%)の順に高い割合となっています。

図表 III-45 安全のために気をつけていること[N=386 ; 複数回答]



子どもの安全を守る取り組みで知っているものを聞いたところ、「登下校時における通学パトロール」という人の割合が最も高く 86.3%、次いで、「いざというときにかけこめる「こども 110 番」や「動くこども 110 番」(74.4%)、「前かごに「地域パトロールステッカー」をはった自転車でのパトロール」(67.1%)の順に高い割合となっています。

図表 III-46 子どもの安全を守る取り組みで知っているもの[N=386；複数回答]

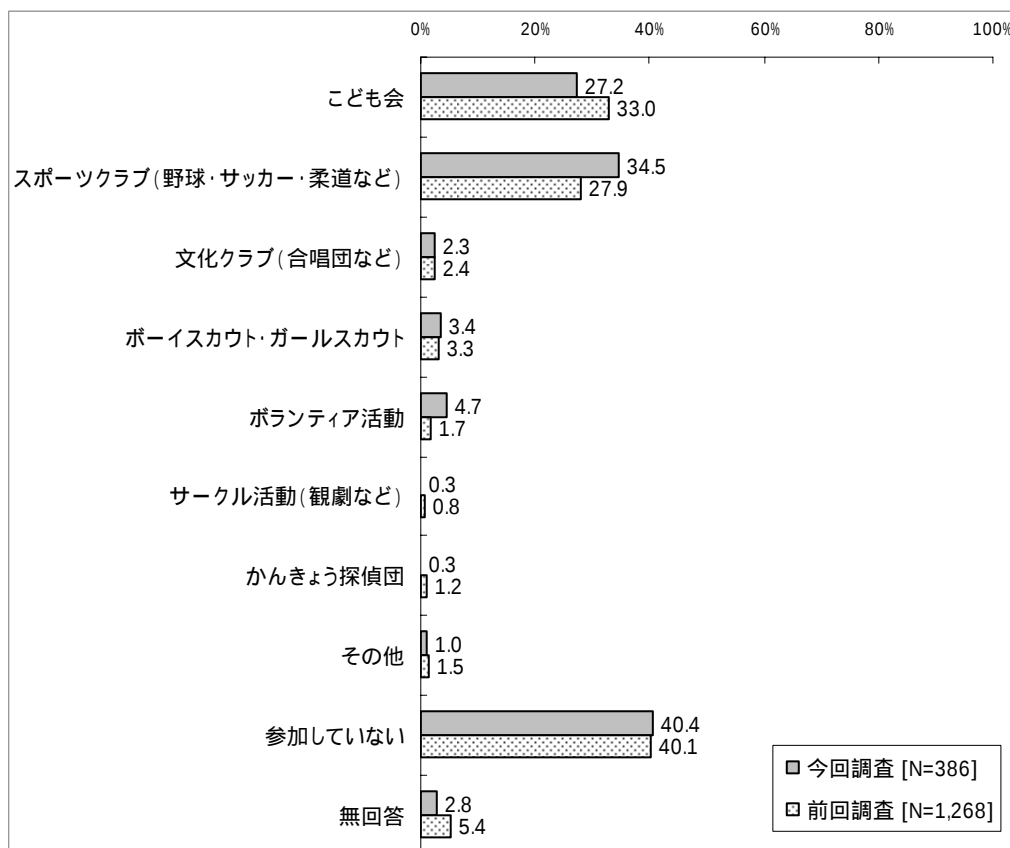


(3) 地域活動への参加状況

現在、参加している活動を聞いたところ、「参加していない」という人の割合が最も高く 40.4% となっています。参加している人の中では、「スポーツクラブ(野球・サッカー・柔道など)」(34.5%)、「こども会」(27.2%) の順に高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「子ども会」の割合は 5.8 ポイント低下しており、「スポーツクラブ(野球・サッカー・柔道など)」の割合は、6.6 ポイント上昇しています。

図表 III-47 参加している活動[複数回答]

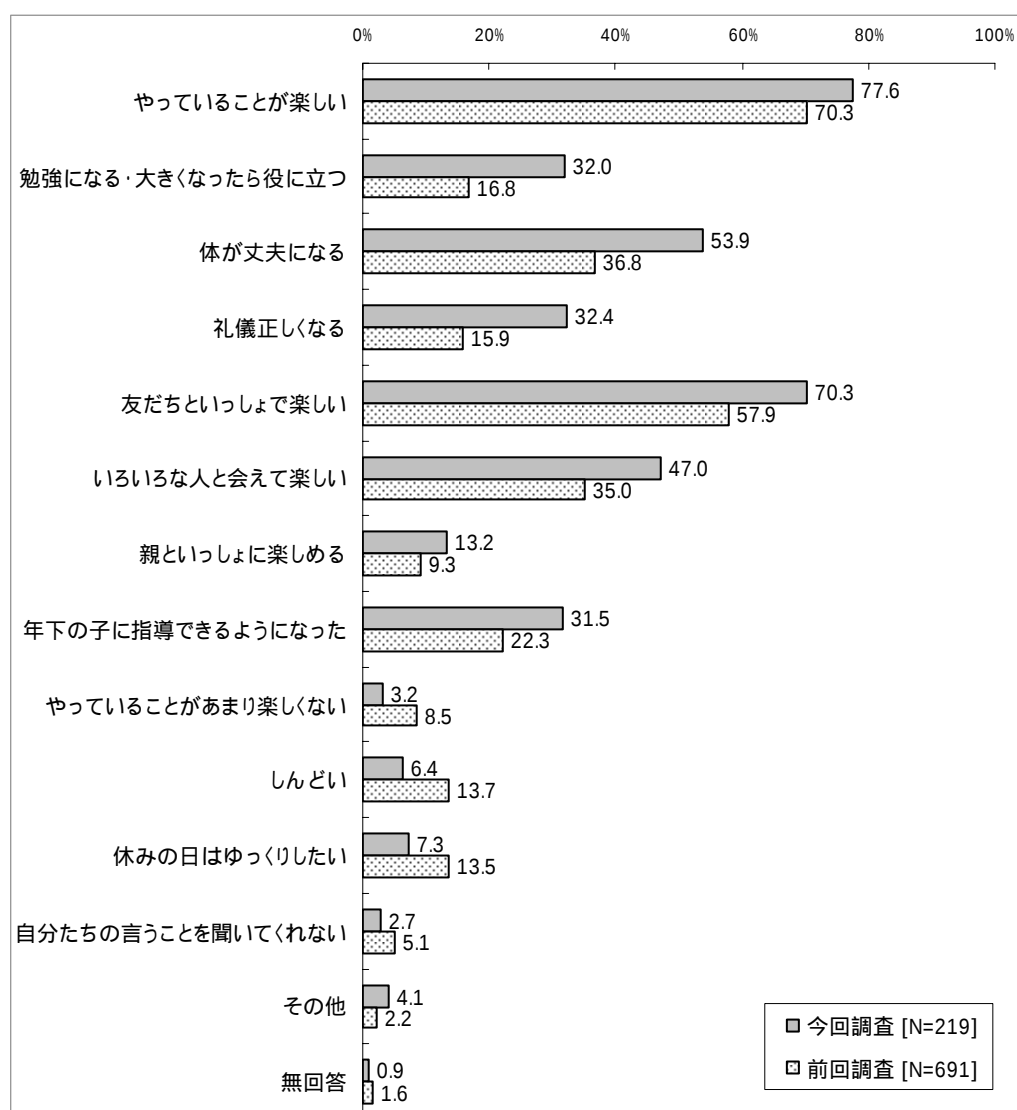


前回調査では、「サークル活動(観劇など)」は「観劇のサークル」となっている。

活動に参加していると回答した人に、活動に参加して思うことを聞いたところ、「やっていることが楽しい」という人の割合が最も高く 77.6%、次いで、「友だちといっしょで楽しい」(70.3%)、「体が丈夫になる」(53.9%)の順に高い割合となっています。

前回調査と比較すると、メリットを感じている内容の割合は上昇しており、デメリットを感じている内容の割合は低下しています。具体的には、「体が丈夫になる」(+17.1 ポイント)「礼儀正しくなる」(+16.5 ポイント)という人の割合は上昇しており、「しんどい」(-7.3 ポイント)「休みの日はゆっくりしたい」(-6.2 ポイント)という人の割合は低下しています。

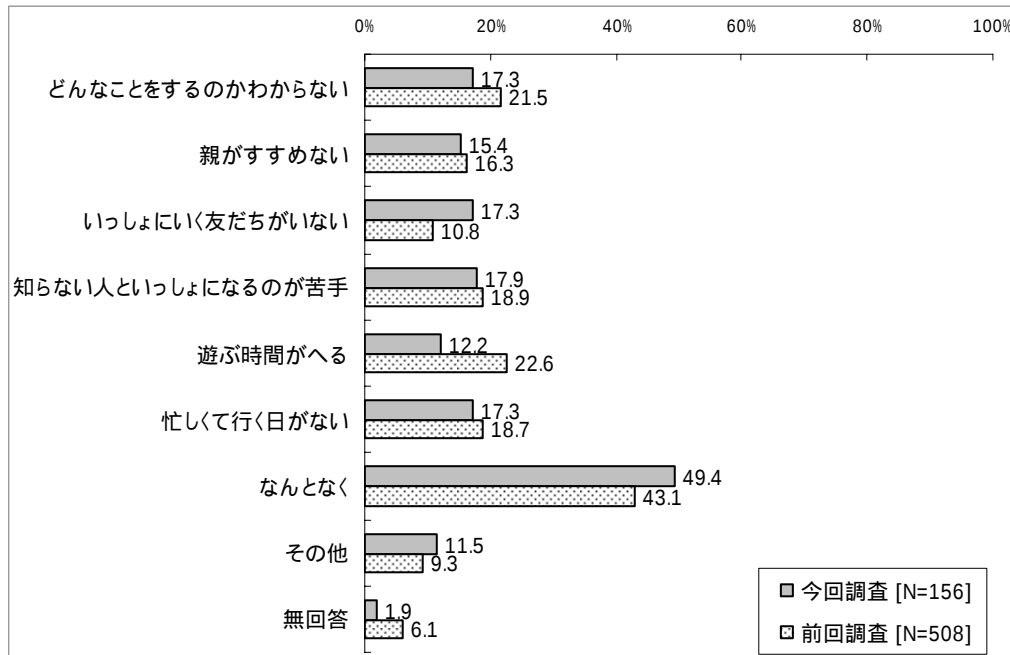
図表 III-48 活動に参加して思うこと[複数回答]



活動に「参加していない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「なんとなく」という人の割合が最も高く 49.4%となっています。理由を回答した人の中では、「知らない人といっしょになるのが苦手」という人の割合が最も高く 17.9%となっています。

前回調査と比較すると、「いっしょにいく友だちがいない」(+6.5 ポイント)「なんとなく」(+6.3 ポイント)という人の割合は上昇しており、「どんなことをするのかわからない」(-4.2 ポイント)「遊ぶ時間がへる」(-10.4 ポイント)という人の割合は低下しています。

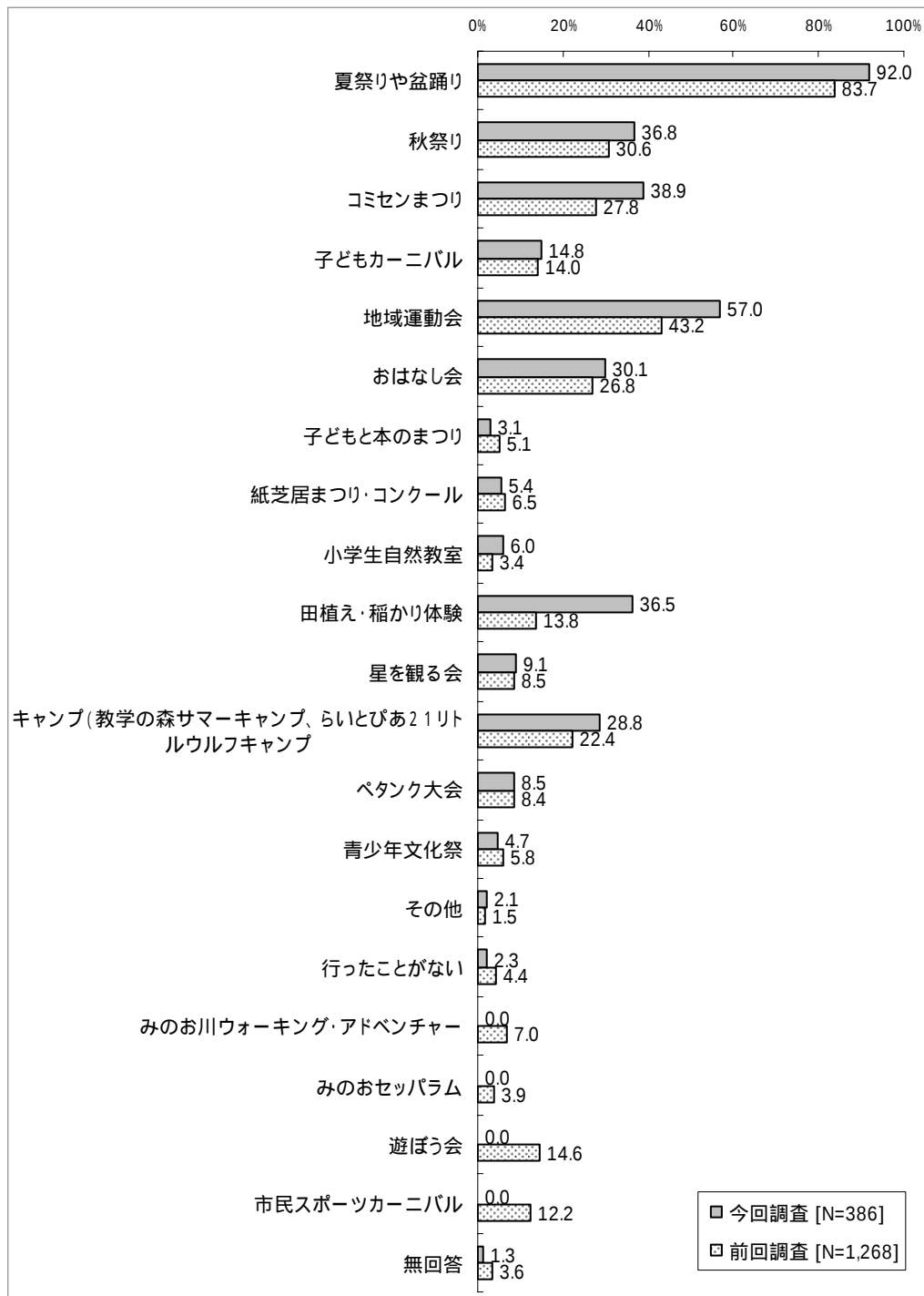
図表 III-49 活動に参加していない理由[複数回答]



行ったことのある行事や催しを聞いたところ、「夏祭りや盆踊り」という人の割合が最も高く 92.0%、次いで、「地域運動会」という人の割合が高く 57.0%となっています。

前回調査と比較すると、比較可能な行事や催しにおいては、大半が行ったことのある人の割合が上昇しており、特に、「田植え・稲刈り体験」(+ 22.7 ポイント)、「地域運動会」(+ 13.8 ポイント)「コミセンまつり」(+ 11.1 ポイント)で、行ったことのある人の割合が上昇しています。

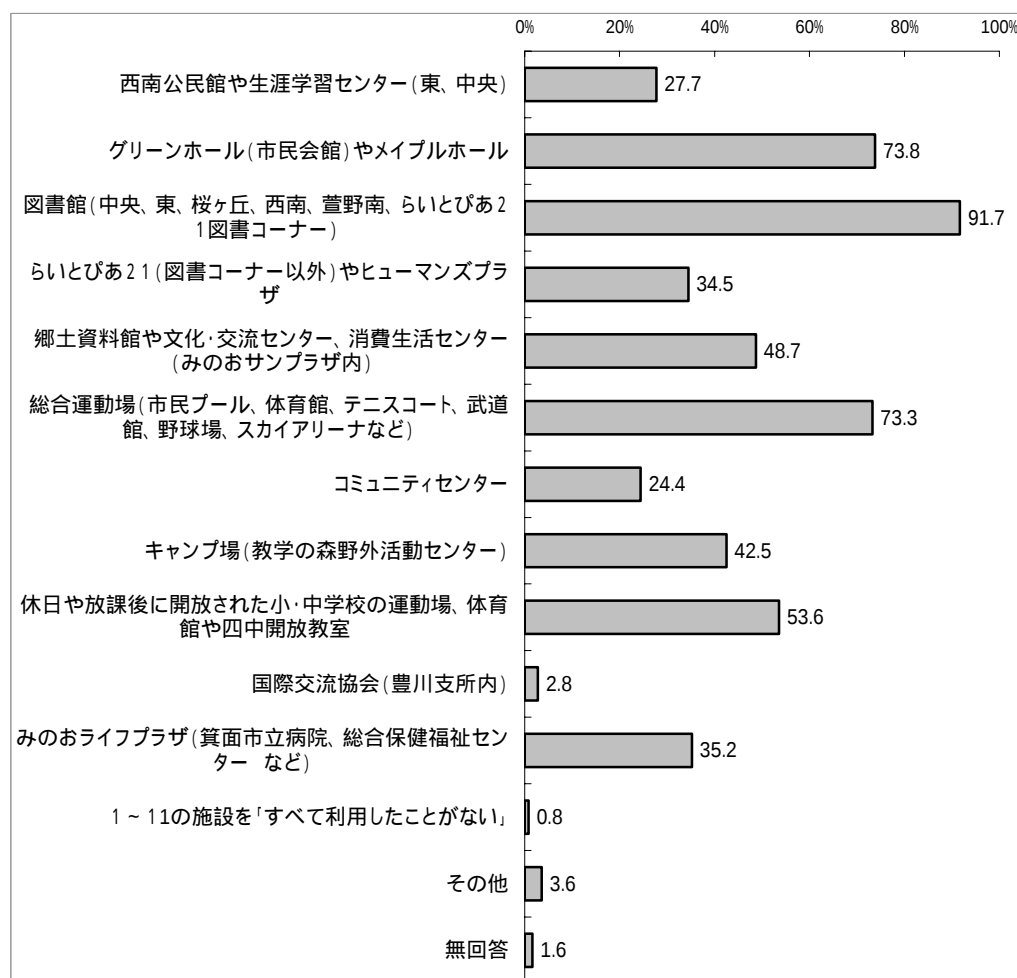
図表 III-50 行ったことのある行事や催し[複数回答]



(4) 地域への愛着

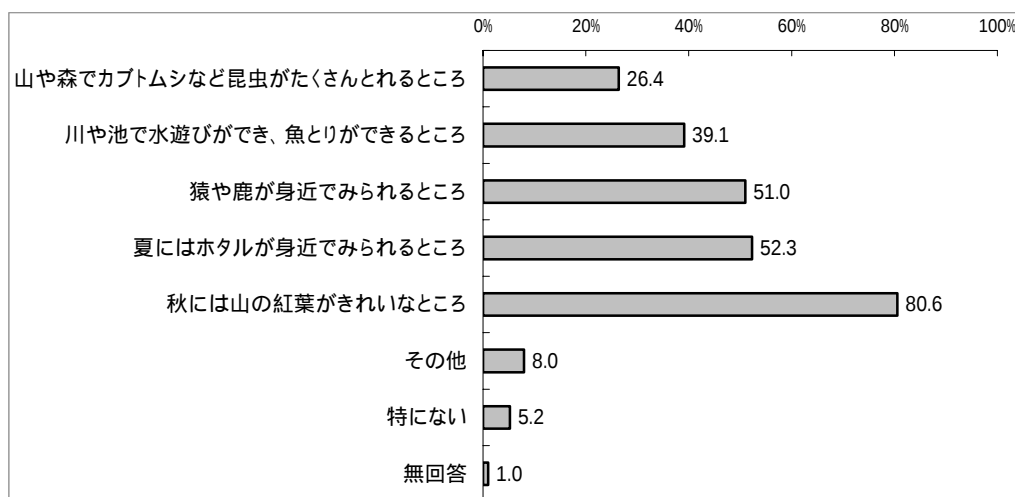
利用したり行ったことのある箕面市の施設を聞いたところ、「図書館(中央、東、桜ヶ丘、西南、萱野南、らいとぴあ21図書コーナー)」の割合が最も高く91.7%、次いで、「グリーンホール(市民会館)やメイプルホール」(73.8%)、「総合運動場(市民プール、体育館、テニスコート、武道館、野球場、スカイアリーナなど)」(73.3%)の順に高い割合となっています。

図表 III-51 利用したり行ったことのある箕面市の施設[N=386；複数回答]



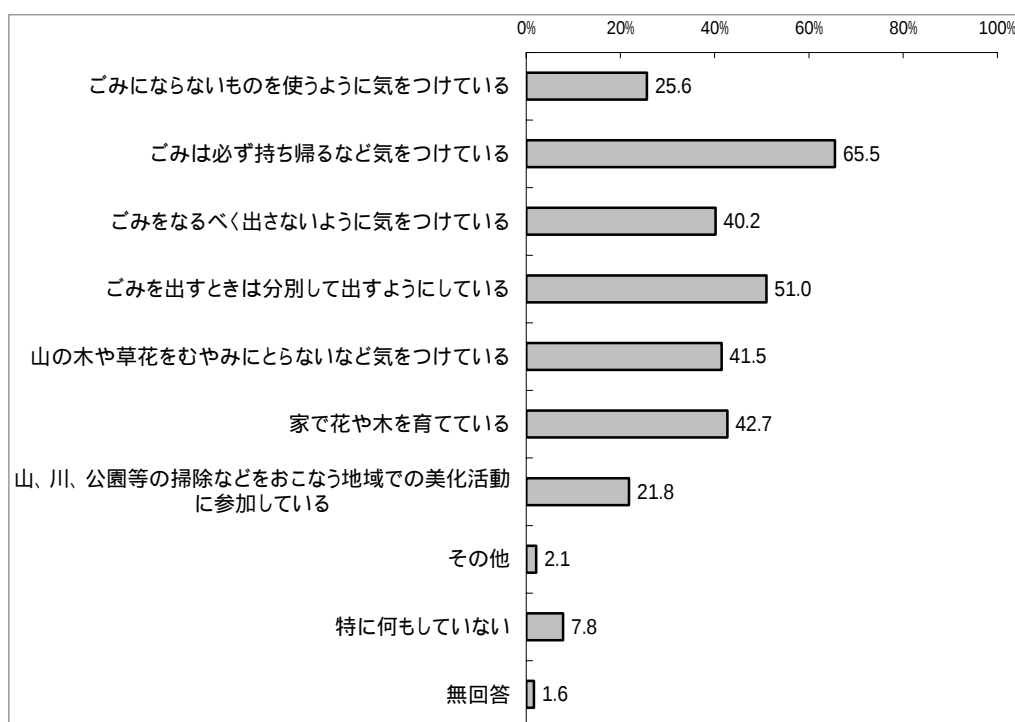
箕面の自然の好きなところを聞いたところ、「秋には山の紅葉がきれいなところ」という人の割合が最も高く 80.6%、次いで、「夏にはホタルが身近でみられるところ」(52.3%)、「猿や鹿が身近でみられるところ」(51.0%)の順に高い割合となっています。

図表 III-52 箕面の自然の好きなところ[N=386；複数回答]



箕面の自然や環境を守るためにしていることを聞いたところ、「ごみは必ず持ち帰るなど気をつけている」という人の割合が最も高く 65.5%、次いで、「ごみを出すときは分別して出すようにしている」という人の割合が高く 51.0%となっています。

図表 III-53 箕面の自然や環境を守るためにしていること[N=386；複数回答]



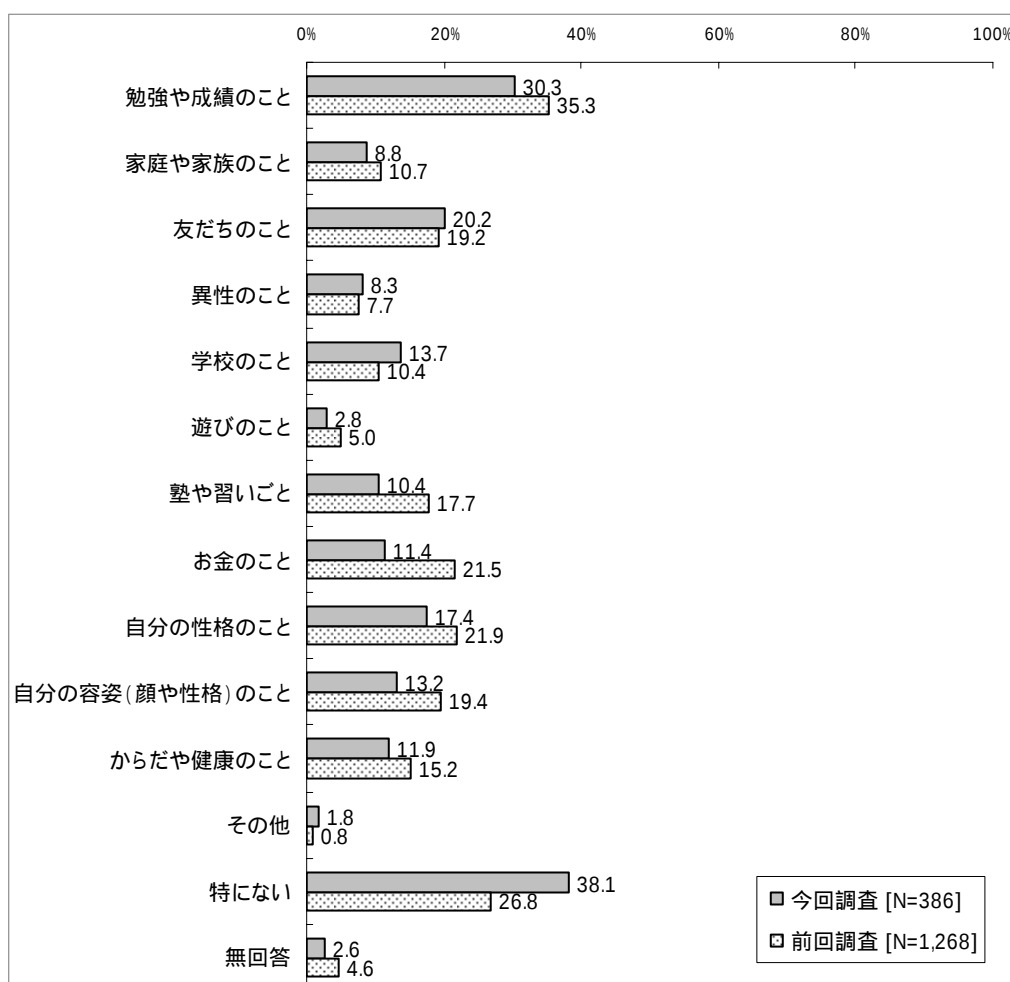
6 . 考え方、気持ち

(1) 困りごと、悩みごと

今困っていること、心配なことを聞いたところ、「特にない」という人の割合が最も高く 38.1%となっています。困っていることや心配なことを回答した人の中では、「勉強や成績のこと」(30.3%) 「友だちのこと」(20.2%) の順に高い割合となっています。

前回調査と比較すると、「特にない」という人の割合が 11.3 ポイント上昇しており、大半の困りごとや心配ごとで回答している人の割合が低下しています。特に、「お金のこと」(- 10.1 ポイント) 「塾や習いごと」(- 7.3 ポイント) という人の割合が低下しています。

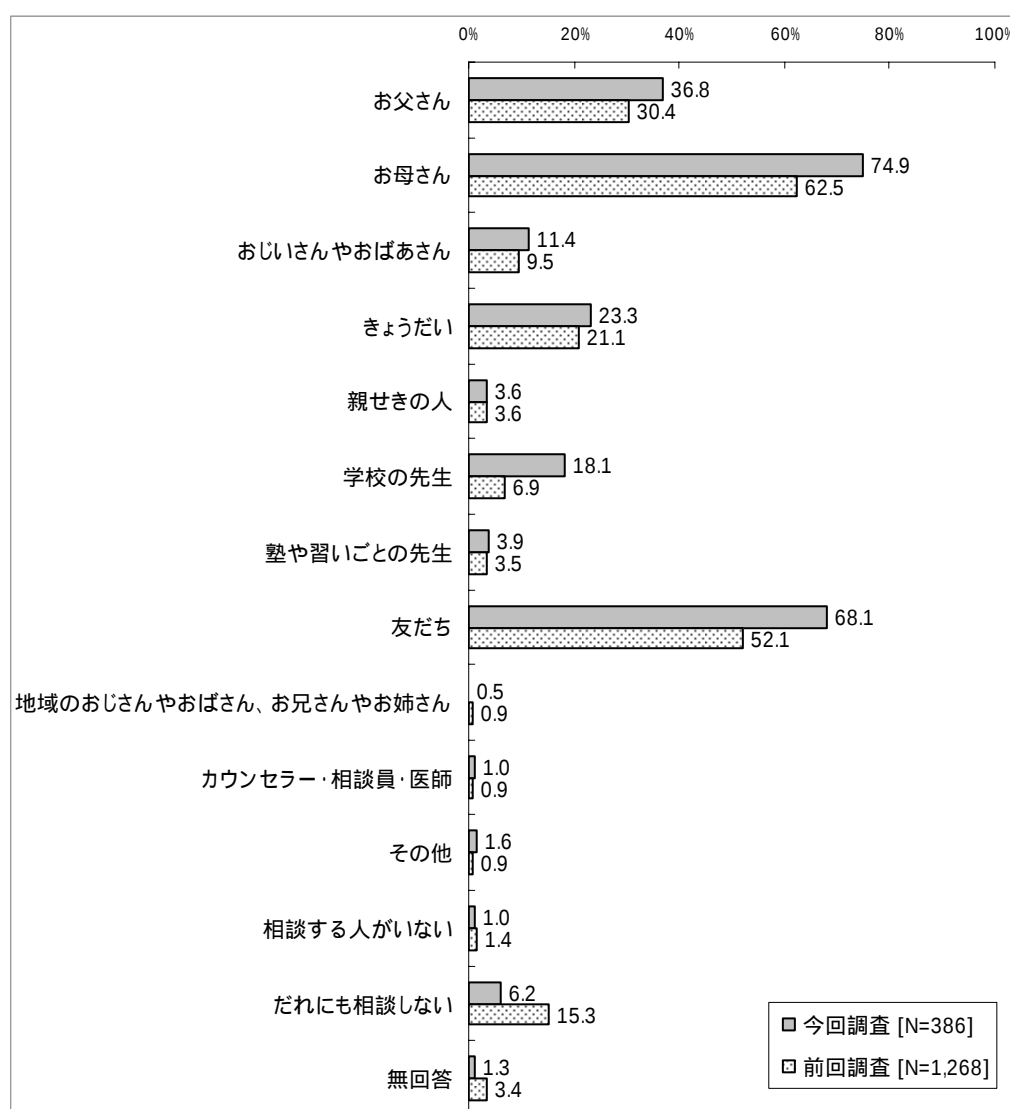
図表 III-54 今困っていること、心配なこと[N=386 ; 複数回答]



困ったとき、心配なときの相談相手を聞いたところ、「お母さん」(74.9%)、「友だち」(68.1%)の割合が高く、次いで、「お父さん」の割合が36.8%と高くなっています。

前回調査と比較すると、「お母さん」(+12.4ポイント)、「学校の先生」(+11.2ポイント)、「友だち」(+16.0ポイント)の割合が上昇しており、「だれにも相談しない」という人の割合は9.1ポイント低下しています。

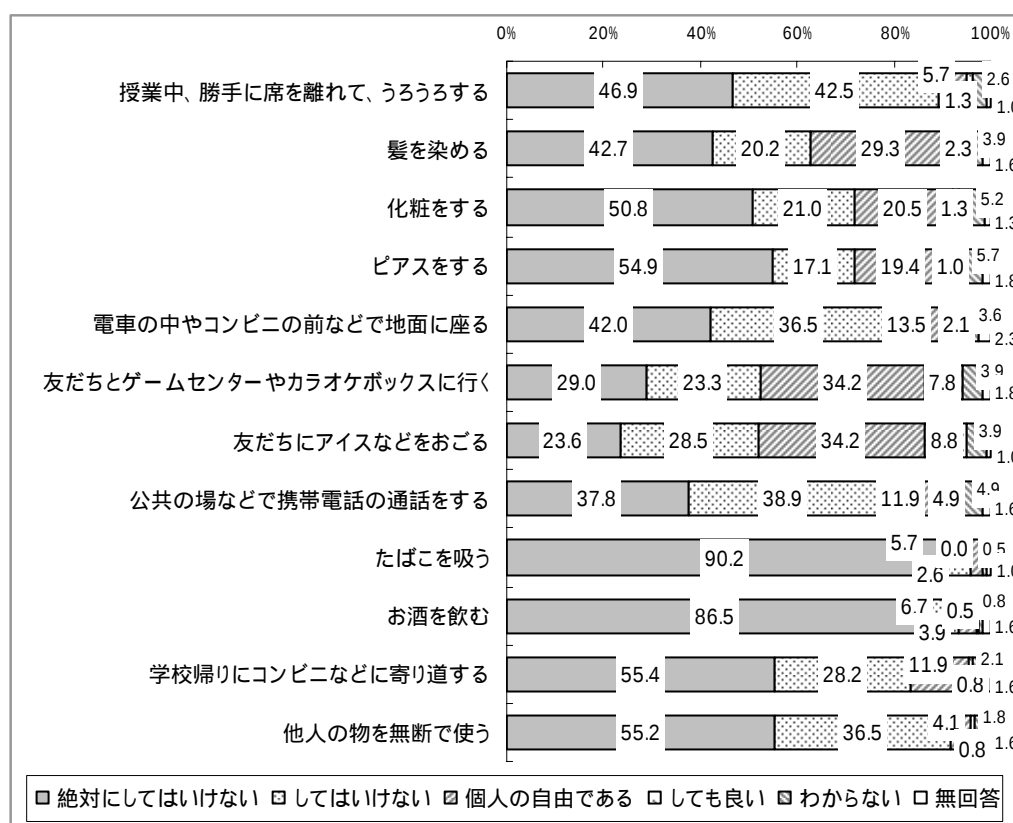
図表 III-55 困ったとき、心配なときの相談相手[N=386；複数回答]



(2) モラルに対する考え方

モラルに対する考え方を聞いたところ、「 たばこを吸う」「 お酒を飲む」については、「絶対にしてはいけない」という人の割合が高く 8.5～9 割となっています。また、「授業中、勝手に席を離れて、うろうろする」「 電車の中やコンビニの前などで地面に座る」「 公共の場などで携帯電話の通話をする」「 学校帰りにコンビニなどに寄り道する」「 他人の物を無断で使う」については、 に比べると、「絶対にしてはいけない」という人の割合が低く 4～5.5 割にとどまっているものの、「してはいけない」という人とあわせると、7.5～9 割となっています。また、「個人の自由である」という人の割合は、「 友だちとゲームセンターやカラオケボックスに行く」「 友だちにアイスなどをおごる」で高く、34.2%となっています。

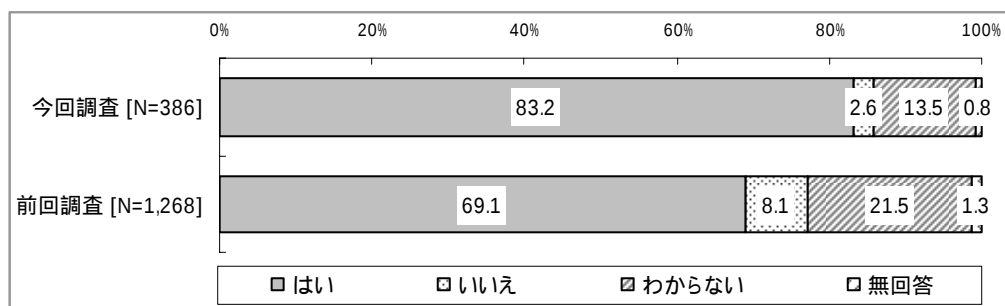
図表 III-56 モラルに対する考え方[N=386]



(3) 自分についての考え方

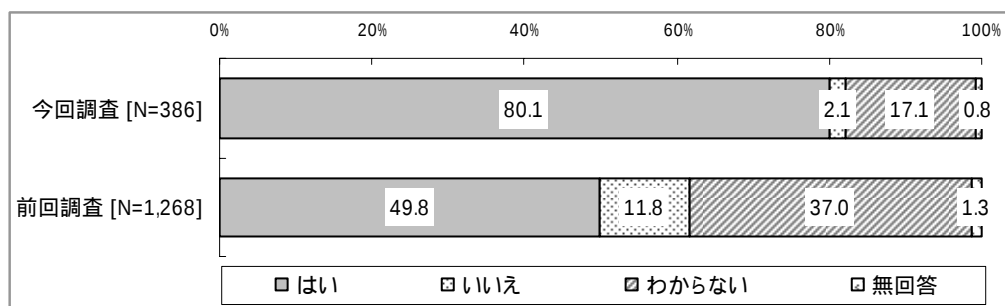
自分の気持ちを分かってくれる人がいるか聞いたところ、「はい」の割合が最も高く 83.2%、次いで、「わからない」の割合が高く 13.5%となっています。前回調査と比較すると、「はい」の割合は 14.1 ポイント上昇、「いいえ」の割合は 5.5 ポイント低下しています。

図表 III-57 自分の気持ちを分かってくれる人がいるか



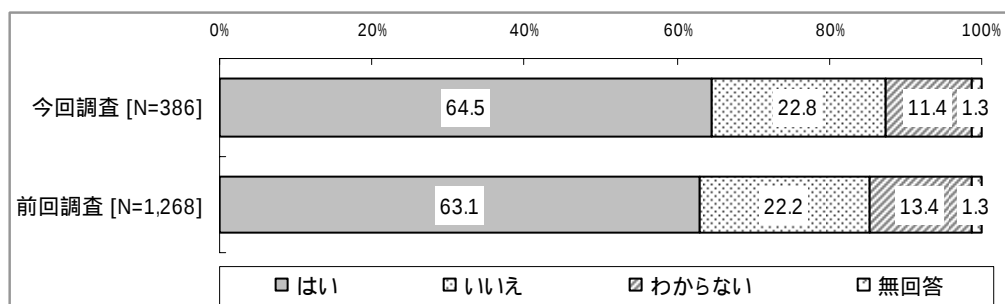
自分は幸せだと思うか聞いたところ、「はい」の割合が最も高く 80.1%、次いで「わからない」の割合が高く 17.1%となっています。前回調査と比較すると、「はい」の割合は 30.3 ポイント上昇、「いいえ」の割合は 9.7 ポイント低下しています。

図表 III-58 自分は幸せか



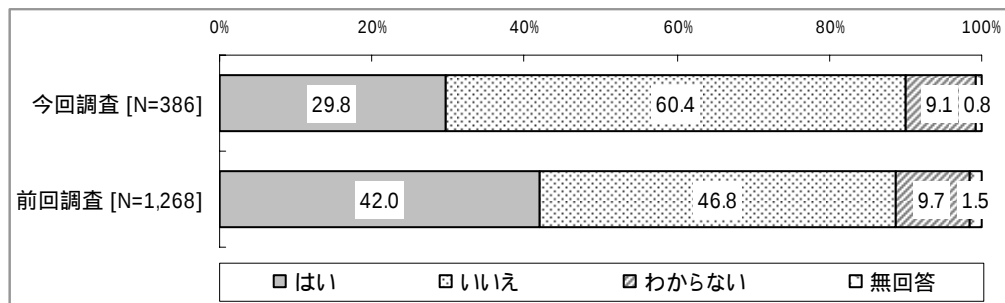
他人にどう思われているのか気になる方が聞いたところ、「はい」の割合が最も高く 64.5%、次いで「いいえ」の割合が高く 22.8%となっています。

図表 III-59 他人にどう思われているのか気になる方か



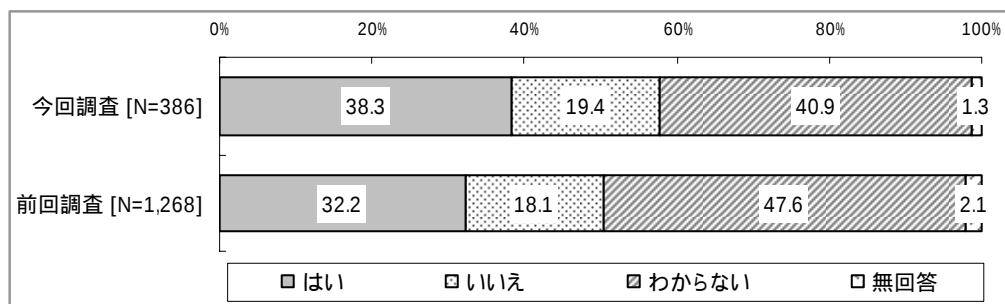
家出したいと思ったことがあるか聞いたところ、「いいえ」の割合が最も高く 60.4%、次いで「はい」の割合が高く 29.8%となっています。前回調査と比較すると、「はい」の割合は 12.2 ポイント低下、「いいえ」の割合は 13.6 ポイント上昇しています。

図表 III-60 家出したいと思ったことがあるか



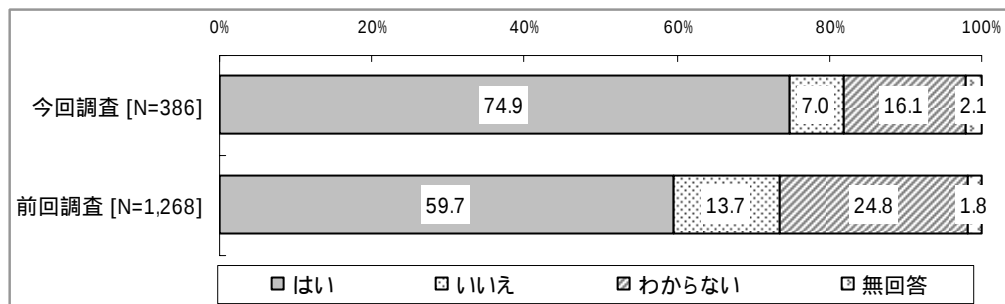
自分のことが好きか聞いたところ、「わからない」(40.9%)、「はい」(38.3%)、「いいえ」(19.4%)の順に高い割合となっています。前回調査と比較すると、「はい」の割合は 6.1 ポイント上昇しています。

図表 III-61 自分のことが好きか



何か1つでも自慢できることがあるか聞いたところ、「はい」の割合が最も高く 74.9%、次いで「わからない」の割合が高く 16.1%となっています。前回調査と比較すると、「はい」の割合は 15.2 ポイント上昇、「いいえ」の割合は 6.7 ポイント低下しています。

図表 III-62 何か1つでも自慢できることがあるか

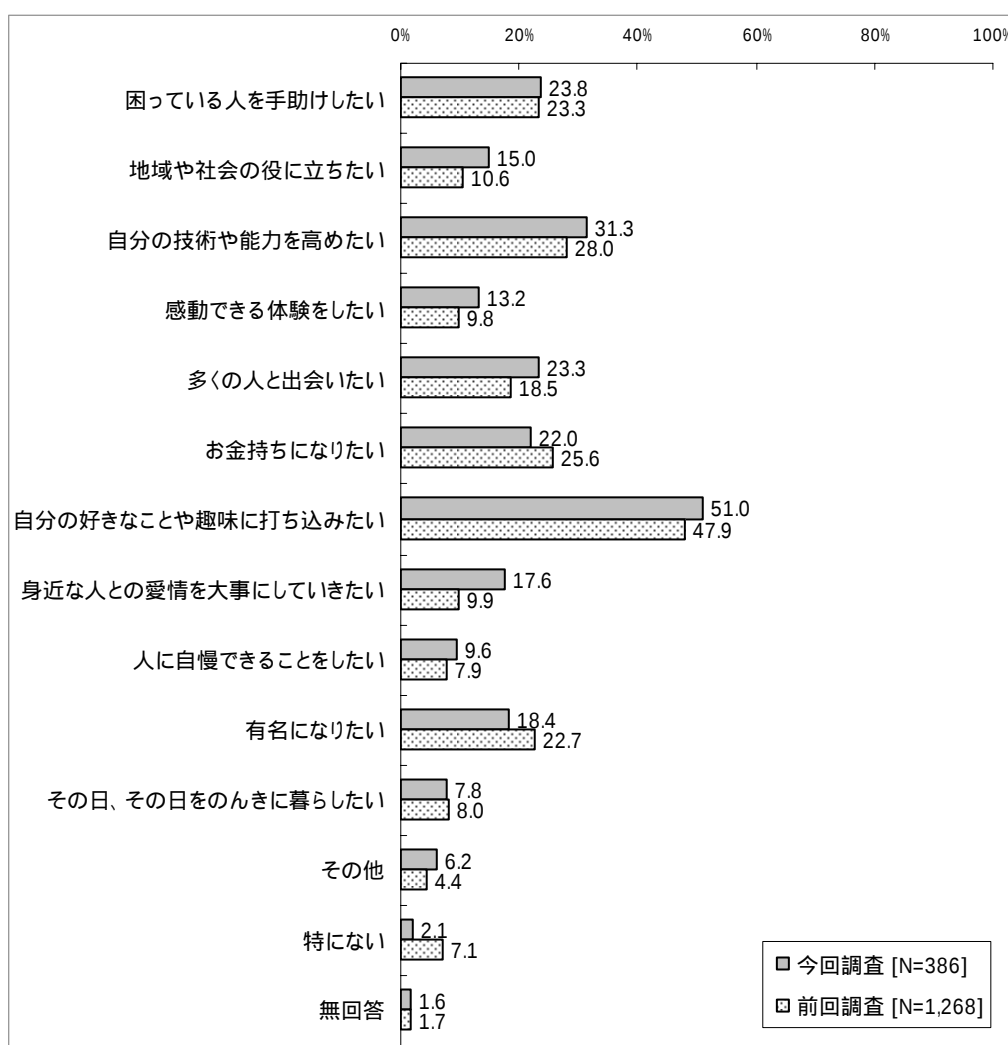


(4) 将来の夢

将来の夢を聞いたところ、「自分の好きなことや趣味に打ち込みたい」という人の割合が最も高く 51.0%、次いで、「自分の技術や能力を高めたい」という人の割合が高く 31.3% となっています。

前回調査と比較すると、「地域や社会の役に立ちたい」(+ 4.4 ポイント)、「多くの人と出会いたい」(+ 4.8 ポイント)、「身近な人との愛情を大事にしていきたい」(+ 7.7 ポイント)という人の割合が上昇しています。また、「有名になりたい」(- 4.3 ポイント)、「特にない」(- 5.0 ポイント)という人の割合が低下しています。

図表 III-63 将来の夢[複数回答]



将来の夢があると回答した人に、夢を実現するためにしている努力を聞いたところ、「勉強をがんばる」(56.5%)、「友だちを大切にする」(56.2%)という人の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、「勉強をがんばる」(+18.0ポイント)、「友だちを大切にする」(+8.6ポイント)という人の割合が上昇しており、「特に何もしない」という人の割合は3.0ポイント低下しています。

図表 III-64 夢を実現するためにしている努力[N=372；複数回答]

